

6月12日（第1日）

6月12日(木)第1日 午前10時00分開議

出席議員

1番	平川博之	2番	酒永光志
3番	上本一男	4番	中下修司
5番	花野伸二	6番	浜先秀二
7番	上松英邦	8番	吉野伸康
9番	山本秀男	10番	片平司
11番	胡子雅信	12番	林久光
13番	登地靖徳	14番	浜西金満
15番	山本一也	16番	新家勇二
17番	野崎剛睦	18番	山根啓志

欠席議員

なし

本会議に説明のため出席した者の職氏名

市長	田中 達美	副市長	正井 嘉明
教育長	塚田 秀也	総務部長	土手 三生
企画部長	山本 修司	市民生活部長	山田 淳
福祉保健部長	島津 慎二	産業部長	沼田 英士
土木建築部長	箱田 伸洋	会計管理者	久保岡ゆかり
教育次長	渡辺 高久	危機管理監	岡野 数正
消防長	小林 勉	企業局長	前 政司

本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	平井 和則
議会事務局次長	志茂 典幸

議事日程

日程第1	諸般の報告
日程第2	会議録署名議員の指名
日程第3	会期の決定
日程第4	一般質問

開会（開議） 午前10時00分

○議長（山根啓志君） ただいまの出席議員は18名です。

定足数に達しておりますので、これより平成26年第2回江田島市議会定例会を開会します。

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

日程第1 諸般の報告

○議長（山根啓志君） 日程第1、「諸般の報告」を行います。

田中市長から報告事項がありますので、これを許します。

田中市長。

○市長（田中達美君） 改めましておはようございます。

第2回江田島市議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、御出席をいただきまして、ありがとうございます。

また、市民の方々には、早朝から定例会の傍聴にお越しいただきまして、心からお礼申し上げます。

中国地方は、平年に比べ3日早い梅雨入りとなりました。

気象庁の発表では、ことしの夏は5年ぶりに、エルニーニョ現象の可能性が高く、この影響で、平年より長い梅雨となり、豪雨や日照不足、梅雨本番を迎えるに当たり、水防体制など、万全を期し災害発生に対処してまいりたいと考えております。

さて、国外に目を向けますと、中国の海洋進出問題やウクライナ問題など、各国間での緊張が続いており、国際情勢の影響が懸念されます。

一方国政は、安倍首相が、集団的自衛権の行使容認に向けた憲法解釈の変更の検討や、消費増税による消費の落ち込みの中、アベノミクス効果による経済の好循環継続に向けた施策展開を図るなど、積極的な政治姿勢を示しております。

本市におきましても、ことし合併10周年の節目を迎え、今後のまちづくりの指針となる次期総合計画、財政計画、行財政改革大綱などの諸計画を立案する大切な年でもあります。

また、公営船の公設民営化や分庁方式による庁舎再編を始め、子育て環境や宿泊施設等の整備方針の検討など、懸案も山積しております。

これからは、地方の想像力による地域活性化策が、かぎとなる時代であり、今後の10年を視野に入れながら、協働と交流でつくり出す施策展開に努めてまいりたいと考えております。

議員の皆様のお協力、よろしくお願いいたします。

それでは3月13日、第1回定例会閉会後の市政の主な事柄につきまして、14項目報告を申し上げます。

まず第1点が、能美中学校新校舎落成記念式についてでございます。

3月18日、能美中学校屋内運動場で、関係者及び来賓の出席のもと、能美中学校新校舎落成記念式を行いました。

新校舎や整備された広いグラウンドなどを使い、今後も充実した教育活動を進めてまいります。

2点目が、高田小学校閉校式についてでございます。

3月23日、高田小学校屋内運動場で、卒業生、地域住民及び来賓の出席のもと、高田小学校閉校式を行いました。

高田小学校は、明治7年の開校以来、140年の歴史の中で、5,271人の卒業生を送り出しました。

地域の皆様には、長い間、温かいご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。

高田小学校の児童は、4月から中町小学校に元気に通学しており、今後も、安全で充実した学校生活を送れるよう努めてまいります。

3点目が、高田保育園卒園式並びに閉園式についてでございます。

3月26日、地域住民及び来賓の出席のもと、高田保育園卒園式並びに閉園式を行いました。

高田保育園は、昭和28年に光源寺を借りて開園し、地域の皆様とともに歩み続け、61年の歴史に幕を閉じました。

地域の皆様には、保育園の行事や子供たちの見守りを通じて、多大な御支援をいただきましたことに感謝申し上げます。

4点目が、広島県都市選挙管理委員会連合会定期総会についてでございます。

4月25日、江田島公民館で、広島県都市選挙管理委員会連合会定期総会が開催されました。

この会議は、県内各市の選挙管理委員会が連携し、各種選挙の適正な管理を図ることを目的としたものです。毎年度1回開催されており、今回の開催地は持ち回りで本市となりました。

当日は、県内各市の選挙管理委員会委員長、事務局長等55人が出席し、平成25年度の収支決算議案や平成26年度予算議案等の審議が行われました。

今後もこの会議を通じて、各市の選挙管理委員会と連携を図り、適正な選挙の管理に努めてまいります。

5点目が、江田島町小用3丁目地先の公有水面埋立事業についてでございます。

平成25年3月21日に広島県と締結した基本協定に基づき、次のとおり5月7日付けで広島県と平成26年度契約を締結し、工事を委託しました。

契約名は、「地方港湾小用港における公有水面埋立事業に係る工事等の実施に関する平成26年度契約」。

契約年月日は、平成26年5月7日。

契約金額は、1,600万円。

契約の相手方は、広島県広島港湾振興事務所。

工期が、平成26年5月7日から平成27年3月31日でございます。

今年度においても、広島県と連携し、早期完成を目指して事業を推進してまいります。

6点目が健康づくり講演会についてでございます。

5月14日、農村環境改善センターで、深江長坂医院の長坂邦子医院長を講師に招き、「健康づくりの7つの目標」と題して、講演会を開催しました。

当日は、食生活改善推進員を始め、139人の来場者があり、平成25年3月に策定した「第2次健康江田島21計画概要版」を基に、健康管理の方法、バランスのとれた食事のとり方、認知症防止にも効果がある運動方法など、生活習慣病を予防するための、7つの目標について、身近な事例を交えながら講義していただきました。

今後も、生活習慣病予防を主体とした健康づくりに取り組み、健康寿命の延伸を図ってまいります。

7点目が、体験型修学旅行等についてでございます。

5月21日から23日までの3日間、兵庫県尼崎市立若草中学校の生徒94人が、今年度最初の体験型修学旅行として本市に滞在しました。

生徒たちは、江田島の豊かな自然の中で、ごち網や船釣りの漁業体験、民泊受け入れ家庭での家業体験などを行い、多くの市民の皆様と交流を深めました。

今年度は、体験型修学旅行として県外から中学校5校、高等学校5校の約1,200人の生徒と、広島県「山・海・島」体験活動としての県内の小学校11校の約400人の児童を受け入れる予定です。

この事業を通じて、本市の農業及び漁業の振興に寄与するとともに、民泊受け入れ家庭同士の交流などにより地域の活性化を図るほか、全国に江田島ファンを拡大できるよう取り組んでまいります。

8点目が、江田島SEA TO SUMMIT 2014についてでございます。

5月31日、6月1日の両日、「江田島 SEA TO SUMMIT 2014」が開催されました。

このイベントは、海から山へと自力で進む中で自然の環境を体感し、自然の大切さについて考える環境スポーツイベントで、2日間で県内外から約190人の参加者がありました。

5月31日は、沖美ふれあいセンターで、環境シンポジウムとして広島工業大学の上嶋英機教授による「エコツーリズムによる瀬戸内海の活性化と新たな環境観光」と題した基調講演と、辰野勇モンベルグループ代表等による「海・里・山のつながりを考える」をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。

6月1日は、サンビーチおきみをスタート地点として、本市の自然を舞台に、カヤック、自転車、ハイクの三つのステージから成る約40キロのコースを、参加者に楽しんでいただきました。

開催に当たり、御協力をいただいた関係機関、企業、団体及び市民の皆様に対し、深く感謝申し上げます。

9点目が、禁煙・食育キャンペーンについてでございます。

6月1日、ゆめタウン江田島で、禁煙・食育キャンペーンを実施しました。

禁煙キャンペーンでは、江田島市地域保健対策協議会などの協力のもと、来場者約250人にパンフレットの配布、呼吸中の一酸化炭素濃度測定、禁煙相談などを行い、禁煙の

推進及び受動喫煙の防止についてPRしました。

また、食育キャンペーンでは、江田島市食生活改善推進員協議会及び江田島市地域活動栄養士会の協力のもと、来場者約300人に、パンフレットの配布、旬の野菜料理の試食などを行い、食育の重要性及び野菜の簡単な調理方法について啓発しました。

今後も、市民の皆様の健康増進に取り組み、「健康で安心して暮らせるまちづくり」を進めてまいります。

10点目が、市制10周年記念コンサートについてでございます。

6月7日、沖美ふれあいセンターで市制10周年記念コンサートを開催しました。

このコンサートは、平成16年11月1日に江田島町、能美町、沖美町及び大柿町の4町が合併して市制に移行し、ことしで10周年となることを記念して開催したものです。

当日は330人の来場があり、マイ・ハート弦楽四重奏団の演奏を始め、カトレアコーラス及び大古児童合唱クラブによる合唱が行われ、大盛況となりました。

11点目が、職員の人事異動についてでございます。

4月1日付けで、職員の定期人事異動を発令しました。

異動人員は、昇任、昇格、配置換え、派遣など総数157人の規模となりました。

管理職員の異動は、別紙1のとおりで、別紙2に行政機構図を示しています。

なお、この場をお借りいたしまして、新任等の部長職を紹介いたしたいと思っておりますので、しばらく時間をお願いいたします。

まず、総務部長から再任用の土手総務部長。

次に、政策推進課長から昇任の山本企画部長。

環境課長から昇任の山田市民生活部長。

財政課長から昇任の島津福祉保健部長。

建設課長からの昇任の前企業局長。

消防本部消防長から再任用の岡野危機管理監。

広島市からの派遣の小林消防本部消防長。

農林水産課長から昇任の渡辺教育委員会教育次長。

会計課長から昇任の久保岡会計管理者。

以上でございます。

どうぞよろしく願いいたします。

次に、12点目が、江田島市土地開発公社の業務報告についてでございます。

江田島市土地開発公社から、地方自治法第243条の3第2項の規定により、平成25年度の決算に関する報告等がありましたので、別冊のとおり提供しております。

13点目が、各種定期総会等についてでございます。

このことについて、別紙3のとおり開催され、市長、副市長、教育長及び関係部課長が出席いたしました。

最後に14点目、工事請負契約の締結についてでございますが、別紙4のとおり契約を締結いたしております。

以上で、市政報告を終わります。

なお本日、追加議案として、財産の取得について、消防団消防ポンプ車購入の議案を提

案しておりますので、よろしくお願ひいたします。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 以上で、市長の報告を終わります。

次に、議長報告を行います。

地方自治法第199条第9項の規定による定期監査の結果報告並びに地方自治法第235条の2第3項の規定による平成26年1月から平成26年4月に係る例月出納検査に対する監査の結果報告が、お手元にお配りしたとおり提出されておりますので、ごらんいただくようお願いいたします。

朗読は省略いたします。

以上で、議長報告を終わります。

これで「諸般の報告」を終わります。

日程第2 会議録署名議員の指名

○議長（山根啓志君） 日程第2、「会議録署名議員の指名」を行います。

本定例会の会議録署名議員は、会議規則第81条の規定により、議長において、7番 上松英邦議員、8番 吉野伸康議員を指名いたします。

日程第3 会期の決定

○議長（山根啓志君） 日程第3、「会期の決定」についてを議題といたします。

お諮りします。

本定例会の会期は、本日から6月18日までの7日間にしたいと思ひます。

これに御異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

異議なしと認めます。

したがって、本定例会の会期は本日から6月18日までの7日間に決定いたしました。

日程第4 一般質問

○議長（山根啓志君） 日程第4、「一般質問」を行います。

その前にお願ひ申し上げます。

類似した質問要旨は、議事進行の観点から質問者及び答弁者ともに重複をできるだけ避けていただき、簡潔にお願ひしたいと思ひます。

それでは、順次一般質問を行っていただきます。

1番 平川博之議員。

○1番（平川博之君）

皆様おはようございます。

傍聴席にいらっしゃっておられる方もおはようございます。

それでは、最初の質問させていただきます。

公明党の平川博之でございます。

お聞き苦しい点多々あるかと思いますが、御容赦いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、通告に従い質問いたします。

地域包括ケアシステムについて伺います。

全国的に高齢者の人口増大がおさまらない中、本市においても在宅支援や認知症対策などの介護を必要とされる方が多くおられます。

そこで、第1点目として、包括支援を必要とされる方への人材育成について、市としてどう取り組んでおられるのか。

2点目として、市としての介護及び人材育成に当てる予算はどうなっているのか。

以上、2点伺います。

○議長（山根啓志君） 答弁を許します。

田中市長。

○市長（田中達美君） お答えいたします。

地域包括ケアシステムについてでございますが、地域包括ケアシステムは、「社会保障と税の一体改革」の考え方によって提案されておまして、重度の要介護状態となっても、住みなれた地域で自分らしい暮らしを、また、人生の最期まで地域で続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい生活支援が一体的に提供されるシステムでございます。

地域包括ケアシステム構築推進の考え方に至った根拠は、日本の人口推移が2060年には、総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率が40%に近い水準になるとの推計が背景にあります。

そのため、受益者と負担の均衡がとれ「持続可能な社会保障制度の確立」を図るためには、医療制度、介護保険制度等の改革も必要となってくるという想定からであります。

これを受け、現在、参議院で審議しております関連法案が成立後は、地域の実情に合った事業実施計画の策定等、市民のニーズに沿った地域包括ケアシステムを構築したいと思います。

御質問の人材育成についてですが、今年度は介護サービス事業所・医療機関・居宅支援事業所等と連携し、研修会や講習会を催す予定で、これらの事業推進のための事業費を予算計上しております。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 1番 平川議員。

○1番（平川博之君） ありがとうございます。

それではちょっと何点かご質問させていただきます。

先ほど、人材育成について述べられた研修会の予定ですが、これはもう早期に行われる予定とか、お考えでしょうか。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 人材育成の研修会、今年度6事業を予定しております。

医療機関であるとか、介護サービス事業所、そういう関連する事業所を含めたものでコ

ーディネートなどを考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 1番 平川議員。

○1番（平川博之君） 早期の取り組み、よろしく願いいたします。

それと認知症対策についてでございますが、先般、こちら江田島市におかれまして、ご夫婦の年配の方が、ご主人の方が亡くなったんですが、家族も子供さんもいらっしやらない中、奥さんも認知症ということで、ご主人が亡くなるのを見守られることもなくですね、2日、3日間放置されているような状態で亡くなったこともありました。

本当に要介護の認定の1とか5とかいうんじゃなくて、本当に今必要とされとる方に、ちゃんと手が届くよう、私たちもしっかり地域の声も聞いてきますけど、行政の方としてはそういういった取り組み方ですが、連携等はどういうふうになってるかちょっとお聞きしたいんですが、お願いできますか。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 御指摘の件ですが、非常に問題となっております孤独死なども含まれる話だと思います。

これについては、民生委員さんであるとか、地域の状況から包括支援センターであるとか高齢者福祉関係の方へ連絡が入るように連絡調整をしたいと考えております。

なるべく孤独死などがないように対応を考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 1番 平川議員。

○1番（平川博之君） なかなか難しい問題なんで、今からしっかり考えていかななくちゃいけないと思いますんで、ともどもによろしくお願いしたいと思います。

それと以前ですね、江田島市の地域推進モデルプランの中に、医師会の一本化いうのを推進していきたいという項目があったんですが、これについては、今どういうふうにお考えなのか、推進はされておるのかちょっとお聞きしたいんですが、お願いできますでしょうか。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） よくちょっと確定的じゃないんですけど、現在の医師会の状況というのは、江田島市内では佐伯郡医師会と安芸郡医師会とが分かれておりまして、一本化をされていないと思います。

その事業についての連携についてはちょっと部長もまだ多分、新任部長なんでよく内容を把握してないと思います。

○議長（山根啓志君） 1番 平川議員。

○1番（平川博之君） じゃあ今から一本化いう格好になっていくということで、認識してよろしいでしょうか。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 大変申し訳ありません。

その一本化について、うちの方へ情報が入っておりませんので、今後担当部局との調整を図りながら、調整していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

○議長（山根啓志君） 1番 平川議員。

○1番（平川博之君） なかなかまだ立ち上げ途中ということで、難しい問題になるんですが、2025年までに高齢者が団塊の社会ということで、ますます増えていく状況になっておりますので、いち早く取り組んでいきたいと思うんですが、最後にちょっと質問、一つ質問だけさせていただいて終わりたいと思いますけど、医療と介護の連携というのは本当に今から不可欠になりまして、医療の側からの視点を取り入れていこうとするものが、この地域包括ケアと考えております。

その意味から、医療が旗振り役として介護の連携を進めることが重要と考えますが、本市はこの取り組みについてどうお考えなのか、最後にお答えしていただきたいと思います。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 医療も非常に重要な、どういうんですか、問題でございますが、介護の方も連携して、そしてサービス事業所、これら全ての連携が必要と思っております。

そのために市としては、先ほど市長が答弁しましたように、医療・介護・予防・住まい・生活支援、これらが一体となったサービスが提供できるようにコーディネートを図っていきたくて考えております。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 先ほど答弁の中で、現在法律をつくるのにも進行中というような、実はこの法律はありまして、要するに医療と福祉が連携する体制が整うだけでも3年はかかるじゃろうという言われとる中身なんです。

非常に複雑な中身でして、もともとどういうてこういうことになったかいうと、介護保険がですね、この15年の間におおよそ支払いが3倍近くなつとるわけなんです。

3年ごとに改定されまして、大方2.8倍ぐらいになりましたかね。

端的に言えば、国がこのままではもう介護保険は維持できんということで、要するに、お金を絞ってですね。要介護の1、2の、本来ですと介護保険を使わないといけんとこの要介護の1、2の部分ですね。要支援の1、2と要介護の1、2とをひっつけてですね。国の本来ですと、国の制度の介護保険の中で手当てをしないといけん部分をですね。地方自治体へ実は、おまえとこやれ言うて、実は持って来た仕組みなんですよ。

ですからその時には、政府の構想が発表されてきたときには、実は全国の自治体は大反対だったわけです。こんなことは地方自治体が受けられるわけがないと。

要するに、国ができにくいとこを地方へ移してですね。

もしかすると財政負担も地方が全部かぶるといような形になったんですが、結局その時に国から地方へ移すことについて地方自治体は大反対してですね。

その結果、非常に事務的なものについては非常に小さい地方自治体ではこの事務できないということで、ある程度政府がまた引っ込めてですね、物事引っ込めて、そういう事務的な手数がかかるものについては国がまた引き取ったわけで、引き取るいうんですか、構想の中から外した。その残りが、今回のこういう法律で医療と介護とを一緒にしてですね、地方自治体に計画を立てなさいと今、ことし平成26年度、その計画を立つとるわけです。

これまでは江田島市はどうしとったかいうことですね。

江田島市は地域包括ケア、この支援センターが、福祉保健部の中にありますけれども、それは医療とは連携します。福祉関係とは連携するけど、市がですねそれぞれの部署と単独で別々に対応しとったわけです。

それは国の今回の法律の改正ですね。全部を江田島市がコーディネートして、要するに中間においてですね。全部がうまく、直接例えば医療機関から福祉機関へですね、直接物事がやりとりできるような仕組みをだれかがつくりなさいよ、という形で結局は、自治体がやるわけなんですけども。そういう形のもので、非常に複雑ですね。

私らもこの制度を江田島市へもってきてですね。

まず何が難しいかいうと、先ほど議員さんが人材を育てるための質問をされました。

まず人材確保をするということは一口でいうと非常に、響きのいい簡単な言葉なんですけれども、人材確保するということは、簡単にいえば、待遇がよければ人材は集まります。

待遇が悪かったら、いくら笛を吹いてもですね、踊る者はおらんわけですよ。

江田島市とか過疎の地方になるとですね。実はその人材そのものが非常に少なくなっております。仮に待遇を良くしても、本当にその人材が集まるかという問題があります。

また医療機関と福祉施設とか、さまざまなNPO法人とか、さまざまのものがですね、社協とかさまざまなものが本当にうまく連携してくれるかということも実はあります。

そういったことで、この事業そのものはですね。

国が描いとる絵というのは、最後には自宅でみんなが看取るというんが、これが理想じゃないかということになっておりますけれども、実際にこれをうまくするには、相当なエネルギーとですね、相当の人材と相当な金をかけんとですね。

私は個人的には動きにくい、全国でもたぶん相当動かない自治体が出てくるんじゃないかと思っております。

これはただ政府が今、法律をつくってですね、自治体へ押しつけたような制度ですので、法律が成立した以上はですね、各自治体努力をしてですね。

それに絵にかいた通りの、なるように努力はしないといけないと思っておりますけれども。

私は非常に、もうのっけからこんな話をするのは非常に残念なんですけども、時間のかかる、苦しい事業というように考えております。

ただ、先ほど言いましたように、こういう法律が出てきた限りには、それをどうしても、それを目標達成するように努力はしないといけないと思っておりますけれども、今後とも非常に苦しいつらいことも出てくるんじゃないかと思っておりますけれども。

またこの包括支援センターは法律が通りますと、たびたびこの問題について議論する場が出てくると思っておりますので、また議員の皆さんもですね、折々に見ていただいてですね、また議会の中で議論できればというように思っております。

○議長（山根啓志君） 1番 平川議員。

○1番（平川博之君） ありがとうございます。

大変に時間がかかるということで、私もいろいろ考えたんですが、あと何か地域に住んでる方で何とか応援できないかということでですね、今、そういった相談窓口のランチの動きとかいうんが、今ちよくちよくその記事とか見るんですが、そういったボランティア的なもので、本市としてそういった動きをやっていったらと思うんですが、そういうのは

今もう、やりよってんか、今からなのか、最後にお伺いして終わりたいと思うんですが、お願いできますでしょうか。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 昨年からです。

準備段階として、そのケアできる人とかそういう人を育てるといいますか、そういう事業を昨年、4事業ほど行っております。

例えば、「島でねばる」フェスタとかそういうことをやっております。

今年度は、夏に「島でねばる」サマーフェスタであるとか、多職種連携の推進事業であるとかそういう地域の力をも利用できるような、プランを考えていきたいと考えております。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） ちょっと補足説明させていただきます。

部長が今答えたのは、今年度中に、計画を法律で縛られて、もう立てんといけん事になつとるわけです。その中で、先ほど私が言いましたように、お金を出してやってもらう。

例えば、医療、お医者さんとか福祉施設とか、それプラス当然市も入りますけれども、NPO、ボランティアでやるようなNPO法人とか、また地域のボランティア活動で私らはここだけだったら、助けてあげられるがのというような人が、そういうものを要するに総動員しないとこの制度は動かないと。

お金だけでも、お金があっても仮にお金だけでも動かない部分が、間違いなしに出ます。ですからそういういった無償で動いていただくような方とか、地域の、江田島市でいいますと、例えば自治会とか女性会とかそういうものもですね、この仕組みの中へですね、取り組まないとその仕組み全体は、政府が考えとる想定しとる、組織いうんですか、仕組みは、在宅介護と在宅医療ですよ。この仕組みは動かないはずなんですよ。

ですから、議員が言われるようにそういった地域のボランティア活動される人もこの全体の仕組みの中へ必ず入ってもらって、できるだけたくさんの方入ってもらって、その地域で入ってもらえればその地域はですね、非常に物事が動きやすく、よく動くということです。ですから、その地域に住んでおられる方いうのは、より安心度が高くなりますので。

そういったことは、市の方としてもですね、いろんな団体と相談をした上でですね、たくさんの方に参加していただけるように、ことし1年かけてですね、構想をつくって計画をつくっていくということを部長が答えたわけなんで、非常にありがたい話なんでぜひとも、そういった実質的に手伝うことができるよという人がおればですね、お知らせいただければ、またうちの方からご相談行きますのでよろしく願いいたします。

○議長（山根啓志君） 1番 平川議員。

○1番（平川博之君） しっかりと地域でしっかりと声かけしていけるよう、私もしっかりと地域の皆様をお願いしながらやっていきますので、どうぞ行政の方もよろしく願いいたしたいと思います。

これで私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（山根啓志君） 以上で、1番 平川議員の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

10時55分まで休憩します。

(休憩 10時42分)

(再開 10時55分)

○議長（山根啓志君） 休憩を解いて会議を再開いたします。

11番 胡子雅信議員。

○11番（胡子雅信君） 皆さん、おはようございます。

11番議員、胡子雅信でございます。

通告に従いまして、2問の質問をいたします。

まず、質問事項の1問目でございますが、広島市の地方中枢拠点都市構想に、どう取り組むかについてであります。

本年4月7日から5月8日正午までを提出期間として、総務省が改正予定の地方自治法に基づく連携協定締結に向けた取り組み等を推進し、地方公共団体間の新たな広域連携の全国展開に向けた先行的モデルを構築するため、新たな広域連携モデル、構築事業の委任に関する提案募集を行いました。

5月9日の中国新聞にも掲載されましたが、広島市がこの公募に対し、地方中枢拠点都市を核とする圏域における取り組みについて、江田島市を含む広島県内8市6町及び山口県岩国市、柳井市の2市を加えた16市町との連携を想定して応募いたしました。

2月定例会で、私が地方中枢拠点都市制度等の仕組みづくりについて一般質問をいたしました。

市長答弁では、国の動向も注視しながら、広島市、呉市との連携協力関係を更に発展させられるよう、取り組んでいくということでありました。

国の動向でいくと、5月23日に複数の地方自治体が簡単な手続で行政サービスを分担できるようにする改正地方自治法が参議院本会議で可決成立し、また、5月30日に公布されました。

人口減に伴い、収入が税収が確保できず、単独の自治体ですべての行政サービス提供が困難になる事態に備え、市町村間の広域連携を促すことがねらいであります。

その一つが人口20万人以上などの要件を満たす、地方中枢拠点都市と周辺市町等との連携を重点的に後押しするというので、今回の広島市の応募について、法的にも根拠付けられたこととなります。

余談になりますが、先週6月9日には、東広島市長が地方中枢拠点都市に関心を示し、指定要件の一つである人口20万人以上に向けての人口増に取り組む考え方を示し、また6月9日には、呉市長が、地方中枢拠点都市の指定を視野に、来年度の早い時期に、現在の特例市から中核都市へ移行する考えを示したとの新聞報道がありました。

さて、本題に戻ります。

広島市が要望した地方中枢拠点都市モデル事業が、まだ採択されるかどうかわかりませんが、江田島市として、どう取り組むかについて3点伺います。

まず、1点目としまして、既に4月16日に締結しました広島市と江田島市の2自治体間の海生交流協定と、どのように組み合わせていくのか、お伺いいたします。

次に2点目として、今後のスケジュールについてであります。

広島市が想定している、広島市を含む17市町は、これまで広島広域都市圏協議会を構成し、自治体間でさまざまな連携と交流を推進しております。

広報活動では、広域観光広報事業としまして、ホームページ「広島広域都市圏情報ステーションり〜ぶら」で情報発信し、また、圏内、圏内というのは、関東圏の圏ですね、圏内情報広報事業としまして、イベント情報誌「り〜ぶら」を発行しております。

また、この協議会の内部組織であるまちづくり、まちおこし協議会でテーマごとに、例をあげましたら、神楽まちおこし協議会、食と酒まちおこし協議会、この食と酒まちおこし協議会には、江田島市も参加しておりますが、こういった協議会を設置し、地域資源活用型の活性化という事例があり、市として観光施策面での連携が主なものであると考えております。

新聞紙面では5月下旬にも、地方中枢拠点都市に関して、担当者での初会合を開くとありましたが、今後の検討会議等が、どのようなスケジュールになるのか、お伺いいたします。

3点目といたしまして、第2次江田島市総合計画の基本計画、実施計画にどのように盛り込んでいくのか。重点的な連携分野についての方向性をお伺いいたします。

続いて、質問事項の2問目に移ります。

旧大君小学校の利活用についてであります。

このたび、産業振興に伴う旧大君小学校グラウンドの一部貸し付けが行われることになり、公募型プロポーザル募集要綱では先週金曜日、6月6日に個別交渉順位が決定されることになっております。

私は、平成20年12月定例会で、廃校予定となる大君小学校跡地の利活用について、道の駅にしてはどうかという質問をさせていただきました。

当時田中市長は、道の駅の立地可能性を検討する必要があるという趣旨の答弁でありました。

また、平成22年には、これは国の補助金による事業として、民間の、特に江田島市におきましては、建設業協会等が参加しておりますけども、江田島ふるさと市場というものを半年間やっており、そのときのトータルの入り込み客が4万人という報告があり、12月定例会で、平成22年の12月定例会では、当時の企画振興課長が4万人という報告を受けているということ聞いております。

今回、産業振興に伴う旧大君小学校グラウンドの一部貸し付けを一つの起爆剤として、将来的に、旧大君小学校跡地を中心とした道の駅開設を検討してみてもどうかと思いますが、市長の見解を伺います。

以上、質問事項2問について、御回答をお願いいたします。

○議長（山根啓志君） 答弁を許します。

田中市長。

○市長（田中達美君） お答えいたします。

1点目の広島市の中枢拠点都市構想の取り組みについてでございますが、まず先般、広島市と締結した「海生交流協定」と地方中枢拠点都市構想はどのように、組み合わせたい

くのかという点についてでございますが、地方中枢拠点都市制度は、地方中枢拠点都市を中心とした圏域全体の持続性を確保するために、「圏域全体の経済成長のけん引」、「高次の都市機能の集積」、それから「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」について、地方公共団体が連携協約を締結することができる新たな制度でございます。

これに対し、本市が広島市と締結した「海生交流協定」は、市民生活における充実感の向上や地域の活性化を図るため、「港のにぎわいづくり」、「地域資源を活用した交流促進」、「瀬戸内海を活用した体験環境学習の推進」について連携を図るものです。

広島市の地方中枢拠点都市構想の具体的な内容については、これから検討していく段階にあります。また、「海生交流協定」の理念や取り組みは、新たな連携協約においても活かせるものであると考えております。

今後とも、周辺地方公共団体との連携を図り、圏域全体の活性化に向けて取り組んでまいります。

次に、広島市の地方中枢拠点都市構想の検討スケジュールについてでございますが、日程はまだ流動的であり、確定されたものではありませんが、広島市においては、今年度内を目途に、連携協約に盛り込む施策を周辺地方公共団体と調整の上、地方中枢拠点都市としての宣言を行いたいとされております。

そのうえで、平成27年度に連携協約を締結し、平成28年度当初から具体的な取り組みを開始するという想定をされております。

現在は、連携協約に盛り込む施策について、事務レベルで検討を行っているところであります。また、広島市と調整を図りつつ、具体的な手続を進めてまいります。

最後に、地方中枢拠点都市構想と第2次江田島市総合計画との関連及び重点的な連携分野の方向性についてですが、現在、策定を進めている第2次江田島市総合計画においては、まちづくりの基本戦略として、市民が必要とし、求めているサービスを提供する「市民満足度の高いまちづくり」と、新たな人の流れや経済活動をつくり出す「未来を切り開くまちづくり」を掲げており、広島市の地方中枢拠点都市構想の具体的な内容については、これから検討していく段階にあります。また、広島市の都市機能と江田島市の豊かな環境を活かした市民生活の満足度の向上や交流の促進などを、積極的に盛り込んでまいりたいと考えております。

次に、2点目の大君小学校跡地の利活用についてでございますが、「道の駅」は、一般的に10キロから20キロ程度の感覚で、長距離ドライブ利用者の多い幹線道路に設けております。駐車場、トイレ、それから交通や地域情報の提供などの道路施設に加えて、地域の特色を生かした物産販売や食事、レクリエーションなどの地域振興施設が整備され、地域の活性化につながるものとして期待されております。

ご提案の旧大君小学校については、現在「大君まちづくり協議会」が使用されており、さまざまな地域の活動で利用するとともに、日々の管理もしております。

この度、グラウンドの一部を産業振興施設として活用することになりましたが、事業は緒についたばかりであり、将来的な事業展開を見きわめる必要があります。

旧大君小学校を活用した地域の「にぎわいづくり」については、今回の産業振興施設の状況も踏まえ、地域の理解を得ながら進める必要があります。その中で「道の駅構想」を含めた検

討をしたいと考えております。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） 今、質問事項の方にお答えいただいております。

それぞれ大項目が2個、あと小項目で、三つありますので、それぞれ一つずつ再質問をさせていただきたいと思っております。

まず広島市の地方中枢拠点都市構想における、いわゆるその4月16日、広島市と江田島市が結んだ、「海生交流協定」そこの兼ね合いとということであります。

先ほど市長のご答弁の中で、地方中枢拠点都市構想というのは、いわゆる圏域全体の経済の活性化であるとか、高次の都市機能の集約、また、圏域全体の生活関連機能サービスの向上というところがあるので、一概には今広島市との2都市間協定が、そこの目的に当てはまるものではないということで、認識させてもらっております。

思うんですけども、今回本当にですね、広島市がモデルとして応募した、全国でいろいろ今応募されております。

恐らく6月末には、総務省の方から、全国でいくと三つか、四つのモデルの都市が指定されるんじゃないかというふうに思っております。

ですんで、ことしは恐らくそれに向けた総務省が全国にこういったモデルがありますよっていうモデルケースをまず抽出するための実験というふうに私は認識しておりますけども。

広島と今、江田島でちょうど今週ですね、新聞でサンフレッチェの選手が、切串小学校でサッカーの選手が来て、子供たちといろいろされております。

これは新聞とかいろいろ見てましたら、この今の海生交流連携協定に基づいた一つの事業というようなニュアンスのメディア発表もあったんですが、この点どうなんですかね、教えていただきたい。

○議長（山根啓志君） 山本企画部長。

○企画部長（山本修司君） 今お尋ねの件ですけれども、まず、最初の市長答弁において、胡子議員の方でちょっと解釈の誤りがあるかと思っておりますので、再度、先ほどの市長答弁を繰り返させていただきたいのですが、このたび4月に結びました海生交流協定に掲げております協定内容とこれから地方中枢拠点都市構想の中で、広島市と江田島市が盛り込もうとしておる理念というものは、共通するものが多くございますので、海生交流協定で結んだ理念というのは、これから広島市と結びます地方中枢拠点都市構想の中に、溶け込んでいくものというふうに理解しております。

それと今、ご質問のありましたサンフレッチェとの交流事業であります、これは海生交流協定の中にあります、地域資源を活用した交流の促進ということで、広島市が持っております都市機能と江田島市の子供たちが交流していくという位置づけの中で実施された事業でございます。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） わかりました。そうしましたら、今の広島市との協定は、最終的には広域の、広島市が今目標としている、中枢拠点都市の中の一つの、ある一つのセ

クターというんでしょうか、全体的な契約というか、また個別の2都市間のその部分における連携という認識でよろしいですか。

○議長（山根啓志君） 山本企画部長。

○企画部長（山本修司君） 地方中枢拠点都市構想は、先ほどもありましたように、圏域全体の経済成長の牽引、それと高次の都市機能の集積、圏域全体の生活関連機能サービスの向上、この三つを柱として構想されるものでございますが、先にあります2点、圏域全体の経済成長の牽引と高次の都市機能の集積、この2件は、広島市において、この手を挙げた自治体のことを起点都市と申しますが、広島市においてにメニュー化されるものでございます。

本市と広島市が協定を結びますのは、圏域全体の生活関連機能サービスの向上ということでございますので、そちらの中に、海生交流協定の中身は盛り込まれていくものというふうに想定しております。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 実は、時間差がありましたんで説明、いきさつを、海生交流協定のいきさつといいますとですね。

2年ぐらい前から市長会の中で、松井市長さんとは、私と2人とも大体認識同じなんですけども、お互いに足らずを補う方法ができれば1番いいんですがねという話をずっと実はしとったわけなんですけれども、その足らずというのは、広島市というまちは、いわゆる海岸、海に関してはですね、全面コンクリでできた海岸でして、砂浜とかいう自然がない、似島に一部ありますけれども、そういった面で広島市に1番大きく欠けとるのは、120万市民のいわゆる海浜とか自然で遊ぶ海をテーマにしたそういった娯楽の施設が、市民が憩う場所がないということ、私は強く感じておったわけなんで、また逆に江田島市にとりましては、ここの中でありまして、国が目指してるような高次の、いわゆる施設いうんですか、そういったものは、江田島市にはありません。

例えばひろしま美術館とか広島市の植物公園とか動物園とかいうのは、江田島市にはありませんので、それを今、それぞれが大きな自前で物事を市民のサービスのために提供するということは、もうこういう財政的なこと考えるともう不可能な時代に突入しておりますので、お互いに足らずを補えることができれば、お互いにギブアンドテイクでよかったねということならいいんですがね、という話をしとったわけなんですけども、たまたま松井市長さんが、もう思い切ってちょっと何か協定を結ぼうじゃないかということから、そうしましょうかということで、この江田島と広島市との海生交流協定を結んだんです。

その後、国のこの中枢拠点制度が発表されまして、多分ここの中でまた、各都市、広島市と各市町が協定を結ぶ場合には、今回の海生交流協定と同じ中身になるんじゃないかと思っておりますけれども、全く別なところででき上がるものということで、場合によっては、海生交流協定のが解消してですね、なくしてですね、こっちの新しい中枢拠点都市の方の協定の方へ移行の可能性も、ほぼ中身的には同じようになりますんで、今の場合には、そういう形で海生交流の方は、ここしばらく生きておりますけれども、また将来にはそういうことになる可能性もあるということで御理解いただければと思います。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） わかりました。

基本的に今結ばれてるところは将来的には、今の広島市の中核拠点都市の制度の中にあてはまるものであれば、その中に吸収されるということでございます。わかりました。

はい、続きまして、二つ目でございますけれども、今、検討会議これからということだと思いますが、今うちの担当課というのは、いわゆるこれからその担当の課長級レベルですり合わせをしていくという認識でありますけども、これは政策推進課、どちらになりますでしょうか、企画部の中であると思うんですが、どこのセクションが担当されるのか教えていただきたいと思います。

○議長（山根啓志君） 山本企画部長。

○企画部長（山本修司君） 広島広域都市圏の連携を今まで担っておいりましたのが企画振興課でございますので、引き続き企画振興課の方が所管することになります。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） 新聞紙上でもありましたけども、先ほど私が申し上げたんですが、広島市の市長が記者会見の発表の中で、そのいわゆる今、17市町広島市を含む17市町の広島県広域、すいません長くて広島広域都市圏協議会を一つの核としたいということなんですが、ここのところでも、企画振興課が御担当されて各部局とのすり合わせをしたのかというところの確認をさしていただきたいなど。

○議長（山根啓志君） 山本企画部長。

○企画部長（山本修司君） 議員のおっしゃるとおりでございます。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） それで私もその今のりーぶらという情報発信ステーション、ホームページですね、いろいろ見てて、今の17市町以外にも23市町、要は山口県の和木町とか周防大島が入っているその23市町の大きなその広域圏があって、その中の17市町が協議会を持っているということで、実際のところそのまさしく、観光面でしか機能しないような気がしますし、あとはいろいろ26年度の事業計画を見ると、民泊、今この中で周防大島もありますし、周防大島この協議会入ってませんけどね、江田島市とか大崎上島とか安芸太田町とか、やってらっしゃるんで、そういった民泊をまた一つの広島県、今その広島市を中心とした県内でのにぎわいというか、これも地元経済の活性化にはなると思うんですけども、今その観光面以外でどういったところをこれから市として、江田島市としてその会合にどういうんですか、アピールするんですかね、江田島市としてはこういうことをやるべきでないかなというふうに御提案されようとされてますでしょうか。これは次の第2次江田島市総合計画の重点的な連携はどこかというふうに質問してるのとちょっと重複しますが、そこらへんのところをお願いしたいと思います。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 広域都市圏についてはですね、もともとが観光行政、もともと皆それぞれがですね、我が町は、我が町はいうて売り込んどったんですよ。

ところがそれがこういった時代になりまして、例えば広島市だけだと、1泊してまたよそへ行くというように、それよりは連携をして広島市へ1泊していただいて、次には、呉市へ1泊していただいてというように、広域で一つのチームを組むということでこの広域都

市圏協議会ができたわけなんです。そのときに、県を越えて隣の、広島県を超えて、岩国と柳井までをいうことで、実はあの間に和木町があります。

和木町が入ってないのは、和木町そのものは、観光資源がいわゆる全くないわけなんで、それで和木町は実は抜けてるわけなんですけども、もともと観光1本に絞った協議会なんで、ほかの政策的なことの協議とか協定とかいうことを想定してないことなんです。

もう一つ、先ほど議員が言われた体験型の修学旅行でですね、周防大島とか大崎島とかいう話がありましたけど、これはまた広島湾ベイエリアの、別の仕組みの方で観光振興をしとるんで、二つとも中を言いますと、もう観光だけ1本に絞ったという形じゃろうと思います。

今回こういう地方の中核都市の国から出て、広島市が手を挙げた訳なんで、そういう観光以外の政策的なことについては、この今回の中枢都市の中で、今後話し合われることになろうかと思います。

今までの組織の中では、そういった政策、他の政策については全く話はされておりません。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） そうですね。

確かにそういった面が今までありまして、実際、つい6月9日ですね、

広島市の方が産・官・学で拠点機能を強化するというので、いわゆる大学であるとか、あとは経済団体ですね、中国経済連合会であるとか、広島商工会議所であるとか、そういったところと意見交換をされていると新聞にも出ておりました。

今江田島市もその参画するその1自治体としては、やはり僕が思うんですけども、行政目線というか視点で物事を決めていくと、これは、なかなかうまくいかないような気がします。

これは、いわゆる観光面でもそうなんです、今市長が仰ったように、それぞれのまちが、うちのまちはこうだ、うちのまちはこうだと地図はつくりますけども、その単独で、要は縦割りで、横のつながりがないということなんですよ。

そういう意味では、まずはこういった連携をする、江田島市もこういったところで連携していきたいというニーズは今ちょうど第2次総合計画でですね、市民ワークショップでいろいろ市民のご意見もありますので、やはりそういったところも抽出しながら、江田島市としての、意思をですね、広島市の方に訴えていくというか、説得していくとか、セールスしていくというところが必要になってくると思うんです。

今ちょっとこの広島市が手を挙げて、どうしても核となるのが、まずは観光面のところが母体として広げていこうと、いろんなどういった部分で連携できるか広げていこうとありますが、やはり今、江田島市も合併してことし丸10周年を迎えようとしている中、合併当初3万2,000人の人口が今2万6,000人を割っていく状況下、もちろんその職員の方々もどんどん人が減っていく、そして行政サービスを本当に満足したものが、市民の皆様方にご提供できるところが非常に厳しい時代。

もちろん合併したときの交付税の算定替えもですね、そろそろ合併11年後、11カ年度目からどんどん徐々に減っていくわけで、その中の足らずのところのサービスをいわゆ

る広島市という中枢拠点都市にお願いするという、私は認識しております。

もちろん今これと、先ほどの広島市との協定の絡みかどうかわかりませんが、消防でいくと、今まさしく消防長が広島市から来ていただいておりますというところもあります、何らか、その連携を一つ、一步、実は積んでいるのかなという思いがあるんですけども、今私が申し上げたですね、それぞれのこの江田島市の見て、こういうやってほしいというところを重点的にどういうふうに今考えてらっしゃるのか、そこを再度市長がお答えできる範囲であればですね。

こういったところをちょっと、今後江田島市の行政体としてなかなか厳しいところをカバーしていただきたいとかですね、そういったところを教えていただければと思うんですけども。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 先ほど申し上げましたように、お互い足らずのとこを新たに組織とかいろんなもつくるのではなしに、今の組織の中でお金をたくさんかけずに、お互いに足らずのとこを助け合うことができればいいですねというようなことなんで、今回の国の地方中枢拠点都市構想そのものはですね、そういう理念で、新しくお金をかけるのではなしに、中枢になる都市を中心に、例えば広島県では現在のところ、福山市と広島市が一つ抜けとる。そういう拠点になる高度な、例えば医療施設持っとるとか、高度な通信施設を持っとるとかほかにも高度ないろんな技術を持っとるとかいう企業がおるとかいう、そういった中心になるまちがあって、実はその周辺はご存じのように、広島市の周辺でもそうですけど江田島市とか、安芸太田とか安芸高田とか、皆それぞれ過疎化しております。

福山市の周辺もそうですけども、それぞれが自前で物事をするのはもう難しい。

全部取りそろえるというのは、市民サービスを全部自前でするというのは難しい時代に入っておりますので、国がこういう形のまちをつくりなさい、と連携しなさいということなんで、そういった点から言いますと、先ほど議員が言われるように江田島市では、こういったことどうかのっていうのは、やはり医療、現在もちろんと医療は確立をしとるわけなんですけど、さらにそれを安定さすような仕組みとか、人との交流、江田島市にとってはやっぱり広島市の117万の市民との交流がですね、さらにこれから進めていってですね、江田島市に来ていただいて、江田島市の良さを認識していただければ、あるいはリタイヤした後、江田島市へ住んでみようかねということもありますので、医療とか、そういう教育ですよね、例えば、現実に江田島市内には大柿高校1校しかありません。

これをですね、今85%の子供が広島市へ通学をしとるわけなんで、そういった広島市へ行っとなじやと、広島だ広島だという考えではなしに、広島市も江田島市の一部だというような発想を転換してですね行政の垣根をなくするような考えをですね、市民の皆さんにもですね、とってもらわんとですね、ただ暗いイメージの話ばかりがですね、地元の高校なくなるんじゃないかとか子供が減るだけじゃないかとかいうようなことはあります。

そういったことで、そういう全ての面にわたって、江田島市で不足しとる足りない部分についてですね、これから江田島市も、こういったものを広島市で協定を結ぶ場合には出していくかということが大きな検討課題なるんですけども、やはり1番は、やっぱり医療とかそういった教育とかいう方面になってくるんじゃないかというのを感じております。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） 私もそういうふうに考えておりまして、今大柿高校の存続にかけて今から協議会で検討していくというところもあって、教育の面、そして医療の面、そしてまた交通の面ですね、広島市も広島港持ってますけども、これ県が管理しております。

やはりその広島市議会においてもですね、その観光というところでいくと、どうしても広島市にある、いわゆる宇品の港か県営の港がありますけどもその何とかしたいんですけども、いやこれは県の持ち物だから何ともならないような、行政の中での話いうのもありますし、まさしく我々江田島市民からすると、宇品は本当に本土の入り口ですから、そこの港のにぎわい、そういったところは、やっぱり我々としても、やっていただきたいし、もちろん交通船も今、赤字の部分は県が半分、関係市町でその半分の割合に応じて負担するというところもあります。

そういつてみれば江田島市民の足である、船についてもですね、交通船、若しくは船の航路についても、バスにしてもですね、そういった江田島市単独でできないところを言って広島市にお願いをするというところでいいかと思うんです。

結局中核都市の中で連携したところで、ところの事業の部分はある程度国が補てんをするというふうな新聞記事もありますので、言ってみればほんとに、今は平成の大合併を終えて更なる合併というのは非常に国としても厳しい状況もあり、道州制も今なかなか議論が遅々として進まない中で、更に加速されている周辺のまちをどうするか、これが一つのこれ今回総務省の一つの実験というか、今後の生き残りということでもありますので、ぜひそのように、江田島市も考えていただきたいなと思います。

そして先ほどの江田島市の総合計画が第2次総合計画、これから今つくり策定しております。

そこはやはり、前回もそうですけども、広島市と呉市と更なる交流を広めていくというところが文言もあり、市長もそういうお考えだと思います。

ここで私も今週の月曜日ですね、呉市長が呉市議会の一般質問での答弁に対して、実は呉市も特例市から中核都市の返還、これは地方自治法の改正で中核都市になる、要は人口20万を超えてますんでそれはなれると、視野としては地方中枢拠点都市も視野というふうにありました。

新聞ではですね、私2月にですね、この質問さしてもらったと思うんですよ。

要は、広島市も中核都市なり得る資格があつて呉もそうです。

じゃあ広島と呉、どちらと連携しますかというのですね、ちょっとそういった質問させていただいて、江田島市長としては、そのときにはあの江田島市民の8割程度が何らかの形で広島市と、関係があるのでというふうな答弁もいただいております。

ただ、仮にですね、広島市が地方中枢拠点都市、呉市が中枢拠点都市になったときに、江田島市がどちらとも連携ができる仕組みなのかどうか、今市の方ではどういうふう考えているのかな、勉強されているのかなというところをお聞かせいただきたいなと思います。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 仮にはなしに、呉市もああやって小村市長さんが議会で答弁したわけなんで、多分そういった方向に物事が進んでいくじゃないかと思います。ただそのときに、江田島市は広島だけと連携するのではなしに、仮に呉市がそういった構想を立ち上げてくればですね、当然隣のまちですから、江田島市もそれに対して協定なり、協力をしてですね、江田島市が呉都市圏で担える部分があれば、当然それは協定を結ぶ必要があろうかと思います。

ですから、現時点では広島市ともしますけど、呉市とも、もし呉市がそういった立場になった時は、呉市とも当然しますということなんですけど、ただ一般的に考えた場合には、江田島市と呉市の状況を見ますと、広島市の場合は明らかに広島市にはこういう自然海岸とか、自然海浜とかいうんがないまちなんで、非常にお互いに有効に協定の内容が生きてくるんですけど、呉市の場合には、音戸、倉橋とか蒲刈とか豊とかいうような同じ江田島市と同じような島しょ部がありまして、呉市から江田島市に期待するものというのはちょっと少ないんじゃないかねと思います。

ただし我が江田島市から見ますとですね、現在も高度医療の場合には、呉の国立病院、それから共済病院などですね、助けていただいております。

産児医療の高度医療もですね、全部そうやって呉市で助けていただいておりますので、当然のこととして、呉市がそういう立場になれば、そこに加わりたいと思います。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） わかりました。

今後呉市がどういうふうに、これまだ来年以降の話です。

今ちょうど総務省で応募かけてるのが広島市と県内では福山市。

ちょうどその広島市と福山市の中、募集の中には重なっているところがあるんですよ、これ三原市なんですけど、そこら辺の動きもちょっと私も今後見ていければなというふうに思いますし、また呉市の方では確かに高度医療の部分もありますし、今先般去年ですか、事件があったいわゆる外国人の問題、特に呉市の方は国際交流協会ですかねということである程度先進的なところでもあり、同じくそのカキ養殖業者もたくさんある地域であるんで、そういったところの連携というのも一つ考えられるのかなというふうに思います。

そういう意味で、ぜひとも今後またこの1年間いろいろこの中央拠点都市構想というか広島市の拠点都市について、江田島市も当事者になりますんで、私どもも頑張りたいと思いますんで、行政の方もしっかり江田島市をPR、アピールしていただきたいと思います。

それでは、次の質問に移ります。

道の駅の大君小学校跡地を利用してはどうかということなんですけども、確かに今、大君地区のまちづくり協議会が、一つの活動拠点として御利用されているということであります。

また平成22年度の仮設道の駅でしたかね。

いわゆるその建設会社等が主体となってやって、国交省の補助金でやったふるさと市場なんですけども、そのときいろいろ議会の方では、その地域住民の方々とその開催時期以降もいろいろその施設を占有してたというところで議論をされたところではあります。

思うんですけども、まず道の駅というのが設置者がこれが市町村、若しくはそれに類する団体ということで、民間がまずつくれないような感じがしております。

そういったところで、これは計画からできるまで時間がかかるし、費用もかかりますが、そこら辺の私が質問したのは平成20年で、その検討するというなんことですけども、そのときから今もう5年6年たつわけなんですけど、そういったところの検討というのは、担当部局の方でされていたのか、そこら辺のところを教えてください。

○議長（山根啓志君） 箱田土木建築部長。

○土木建築部署（箱田伸洋君） お答えいたします。

道の駅の構想につきましては、前回の答弁でも海辺の新鮮市場とか、さくらとの関係がございますということで、そこの話し合い等もなかなかできてないというようなことでございまして、具体的な検討というものは進んでおりません。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） 道の駅なんですけども、先ほど市長のご答弁にもありましたけど、まずドライバーさんの休憩の機能というところが一つあります。

そしてあとは地域の道路事情であるとか、あとは歴史や文化観光つてものをそういった公的な施設で、ドライバーさんとかに情報発信するという情報発信機能というのがあります。

そしてあとは食事とかですね、あと地域の特産品の買い物とかですね、地域からの情報の場ということで、地域連携機能というのもあります。

ここには、例えば文化振興機能であるとか教育とか学習機能を備えている施設もございます。

そういった意味では今、地元との話し合いも必要だということであるんですが、大君のまちづくり協議会の活動の場としての施設も含めたものも可能ではないか、というふうに考えております。

そしてあとは何ととっても、防災機能を備えた道の駅もあるわけなんですよね。そういったところを考えましたら、ぜひともですね、江田島市陸の玄関、もうあそこ絶対通りますから、そこは一つ必要なところかなと思っております。

それとあと今、江田島市もですね県の単県補助で補助金をいただいております。

こちらの方が、これは平成23年度採択の過疎地域の未来創造支援事業ということで、平成24年度には約3,100万円、平成25年度には1,500万円、約ですね、県から補助金をいただいて、いろいろなブランド確立や販売拡大ということで、単年度ごとにやられております。

平成24年から平成32年までの江田島市の目標数値、これは県に申し込む時に出して数値としまして、農業販売額が10億円増を見込む、そして花き販売量が1.1倍。

そして入り込み客が100万人、ということなわけです。

その中ですね、やはりその入り込み客を誘致する、ていうか100万人目標、非常に高い目標でございますが、そこにはその圏域というかその外からですね、人が来れるような仕組みづくりも必要。その中には道の駅というの必要ですし、もし仮にですよ。そこに農業振興の施設で見学施設があるとかあればですね、これも一つの魅力になると思うん

ですが。

それとですね、もう一つ、それも含めて答弁していただきたいんですけども、昨年9月にユウホウ紡績が閉鎖をしました。あそこの施設の中には木造建築、れんがですかね、要は明治30年代ですか、の建物が残っております。

そういう意味ではそこをですね、何らかのこれは近代建築遺産としては海上自衛隊のれんが造りのところとかを含めたら、これは江田島市としても非常に貴重な財産であると思います。

今民間所有になっておりますんでどうなるかわかりませんが、そこら辺の施設を含めた道の駅というのでも検討してはどうかと思うんですが、いかがでございますでしょうか。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） ずっと以前から大君小学校の跡地については、そういう道の駅とかいろんな話があつたわけなんですけども、数年前に建設業者さんが中心になって市場を開いたわけなんですけども、その後そのときの一種のトラブルいうんですか、そのことがずっと尾を引いておまして、今回大君小の土地の一部を産業振興のために、貸そうじゃないかというときに、地元のまちづくり協議会とも再三協議をしたわけなんですけれども、やっぱりその中でまだそういったことのしこりが多少あります。

そういったことで、道の駅にするためには幾つか課題を解決しなければいけないことがあります。

やはり地元の例えば商店をどうするか、対応をどうするかとか、幾つかの課題があります。

そういったことをもう少しちょっと、今回もし民間企業の方が事業をされると思いますが、もしそれができてみてですね、ある地域の、例えば空気がこういったものができてよかったねとかいうような、地域の空気が変わればですね、そういった道の駅をつくることは、学校舎も当然壊す話なんで、現在のところでは校舎壊すことも、地域の方というのは非常に抵抗いうんですか、そういった気持ちの上で抵抗がありますので、やっぱりそこらの地域の方の心情をですね、心情を少しずつ緩和してもらうようなやり方で物事を進めるとですね、今の時点で、道の駅をやりましょう、いいことですね、という形で発表しますとですね。物事が地域の方の頭越して、物事が進むという形で、決定するという形になりますので、もう少し時間をかけてですね、取り組んでいきたいと思いますので、もう少し時間を。

だれが見ても、場所的にも、江田島市内であそこが最高の場所なんで、あれだけの土地があるということは非常にやりやすい、条件的にはいい。

国交省にも、もし申請すれば、必ず通る場所じゃないかと思しますので、もう少し時間かけてですね、検討させていただければと思います。

○議長（山根啓志君） 11番 胡子議員。

○11番（胡子雅信君） 今、市長の答弁の中で過去にそういったところの疑心暗鬼のところも地域住民もあるだろうと、また、自分たちの地域のシンボルである小学校の校舎の問題もあるということで、非常に複雑な住民の方々との思いもあるということなんです

が、そういう意味では時間をかけるといってもですね、要は何もせずに時間をかけて反対の意識がなくなるのを待つではなくてですね、やはり何らかのその地域の住民の方とのコミュニケーション、地域の方々が誤解されている部分もあると私は思っております。

例えば今、広島県の竹原市では旧竹原警察署の跡地で道の駅を作ってますけども、やはり行政がこれをしますというよりは、地域を巻き込んで地域の皆さんを巻き込んで、そういった大君地区のにぎわいですよね。

それをつくっていくという大きな目標。そして全体的に江田島市の入り込み客100万人を目標を目指す、そういうところで一つずつ会合というか、ミーティングを積み重ねていくことが大切じゃないのかなと私は思います。

そういう意味では、ぜひですね、本当にちょっとずつですね、会話をしながら、例えばですよ、今私が申し上げたのは、結局先ほどの総合計画のですね、市民ワークショップの中にもやはりいろんなその項目があって、やはり道の駅が欲しいねという市民の意見もありました。

そういったところですね、次の10年を目指すためにはこういった取り組みを毎年毎年、徐々に徐々にそう市民との対話を重ねながらやっていただければなと思ひまして、私の質問を終わりにさせていただきたいと思ひます。

○議長（山根啓志君） 以上で、11番胡子議員の一般質問を終わります。

○議長（山根啓志君） 暫時休憩いたします。

13時まで休憩します。

（休憩 11時40分）

（再開 13時00分）

○議長（山根啓志君） 休憩を解いて会議を再開いたします。

2番 酒永光志議員。

○2番（酒永光志君） 2番議員の酒永でございます。

通告に従い、子育て環境の充実について一般質問をいたします。

次に、質問を控えておられます上松議員の質問の内容と若干かぶる点があるかと思ひますが、お許しをいただきたいと思ひます。

最初に、質問要旨1についてでございます。

子育て環境の充実は、本市の定住対策にもつながる最も重要な施策の一つであると思ひます。江田島市の子育て環境について、現在どのような具体の取り組みをされていますか伺います。

次に、質問要旨2の児童公園の現状と課題についてでございます。

本市には現在沖美町に4カ所、能美町に4カ所、大柿町に7カ所、江田島町に13カ所、計28カ所の児童公園がありますが、市長は公園の現状を御存じでしょうか。

児童公園として、堂々と市民に示せるものになっているでしょうか、伺います。

次に、質問要旨3の保育園の園庭開放の取り組み状況についてでございます。

保育園の園庭開放は、市内10カ所の全ての保育園で実施されていますが、園庭の開放日数や開放時間は非常に少なく、またそれぞれの園で違っており、利用者にはとても満足のものではないと思ひます。

保育園は、保護者の事情で家庭で保育できない子供たちを保育するだけでなく、小学校という、次のステップへ進むための場でもあり、集団生活を経験できる最初の場であると思います。保育園に通ってない子供たちにも、できるだけ多くそういう場を経験させてやるべきではないでしょうか。市長のお考えを伺います。

平成24年8月に制定された子ども・子育て支援法第7条の条文に、「この法律において「子ども・子育て支援」とは、全ての子どもの健やかな成長のために、適切な環境が等しく確保されるよう、国若しくは地方公共団体又は地域における子育ての支援を行う者が実施する子ども及び子どもの保護者に対する支援を言う」とあります。

遊具もトイレもなく、行ってみれば草が茂って、子供を遊ばせる場所のない児童公園ではいけないと思いますし、いつでも行ける保育園の園庭開放であってほしいと思います。

以上、3点について市長の所見をお伺いします。

○議長（山根啓志君） 答弁を許します。

田中市長。

○市長（田中達美君） お答えいたします。

子育て環境の充実についてでございますが、まず1点目の子育て環境の充実に向けた取り組み状況についてでございます。

現在、就学前児童が利用できる施設は、保育園中10施設、子育て支援センター1施設、児童館4施設となっています。

平成26年4月1日現在の就学前児童数は、約850名で、そのうち約500名が保育園に入園しております。

入園していない約350名の児童が、子育て支援センターや児童館を利用しながら、家庭などで保育していることとなります。

深刻な少子化が進む中、子育て支援に関しては国策として取り組んでおり、本市としましても来年度から施行される、「子ども・子育て支援新制度」に合わせて、幼児期の学校教育・保育の総合的な提供、需要に合わせた保育の確保と質の向上、地域での子ども・子育て支援の充実を柱とし、昨年設置した「子ども・子育て会議」で、これからの子育て支援のあり方について検討しています。

次に、2点目の児童公園の現状と課題についてお答えいたします。

現在の児童公園は、合併前の旧町施設を引き継いだもので、先ほど議員が言われましたように、市内に28カ所設置されております。

旧町別では、江田島町13カ所、大柿町7カ所、能美町4カ所、沖美町4カ所となっており、近所に住む市民の方が利用されております。

その規模は約8割が、1,000平方メートル未満で、500平方メートル未満の小規模な公園も4割を占めております。

園内の遊具については、老朽化に伴って事故防止のための利用の少ない公園では撤去したことにより、全体の約4割に当たる10カ所で遊具のない状態となっております。

また、公園の維持管理は、ほとんどの公園で自治会などの地域団体が「いきいき公園づくり奨励金制度」を活用され、地域の財産として、安全で快適に利用できるよう日常の管理をしていただいております。

一方で、少子高齢化時代の到来により、児童公園も子供だけではなく、高齢者を含む近隣に住む市民が、快適に利用できる身近な公園としての機能を、充実させる必要も生じております。

これらの状況を踏まえ、今後の児童公園のあり方について、全市的に検討する必要があると考えております。

続いて3点目の保育園の園庭開放の取り組み状況についてです。

本市では、保育園ごとで多少実施内容が異なりますが、すべての園で園庭開放事業を実施しております。

近くに友達がいない方や安全な遊び場所がない方が親子で一緒に利用しております。

ご存じのとおり、保育園は、児童が親と離れて集団生活をしております。

一般開放することにより、保育児童に影響がないよう配慮しながら、未就園児の交流の場やスムーズな就園に向けて、安全な遊び場として提供していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） それでは、再質問をいたします。

子育て支援の取り組みについては、広報えたじまの「子育てひろば」で紹介されておりました、ただいまの市長の答弁と合わせよくわかったところでございます。

ただその多くは、子育て支援センターを中心とした取り組みに思えます。

沖美町をはじめ、江田島町の切串・大須、大柿町の深江など、センターから遠く離れた地域に居住する、いわゆる保護者の皆様、また、交通手段を持たない市民の皆様にとっては、その利用が大変難しい状況にあると思います。

すべての子供に等しく、子育て環境を享受させるには、支所や出張所等、市民の身近な公共施設を使った取り組みが必要と思いますが、市の考えをお聞きします。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 御指摘の支所、出張所などの活用はどうかということですが、支所、出張所については、直接福祉保健部が管轄しておりませんので、関係部局と連携しながら、またその他の公共施設ですね、こういうものも含めて利用が可能であるかどうか検討したいと考えております。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） はい、検討していただけるということですね、本当に検討してください。はい、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、子ども・子育て支援法が、平成27年4月に施行されます。

江田島市においても、現在、法の施行に向け、準備が進められていると思いますが、現在の進捗状況はどのようになっていますか、伺います。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 現在、市では昨年度から、子ども・子育て会議、これを立ち上げて会議を重ねております。

この5月だったですかね、5月が4回目の会議を行ったところです。

今後、後に2回ほど会議を予定しております、最終的には年末には、議員の皆様、

その計画書をお示しできる予定でございます。

以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） その計画書を楽しみにしております。

着々と準備が進められているようで安心をしておるところですけれども、その計画書についてはですね、総花的になることなく、実現可能な着実に実行できる取り組み計画をお願いしたいと思います。

それでは次に、児童公園について再質問をいたします。

あらかじめいただいた本定例会の議案において、江南児童公園の廃止条例が提案されることになっております。

これが議決されれば、27カ所の児童公園となりますが、この中において子供向けの遊具があり、トイレも併設され、十分な利用に耐えうる児童公園は、現在何カ所ありますか。伺います。

○議長（山根啓志君） 箱田土木建築部長。

○建築部長（箱田伸洋君） 児童公園の状況でございますが、まず子供向けの遊具が設置しております。

今現在28カ所ありますうち、子供向けの遊具は全部で11カ所、砂場のみを含めた場合には、3カ所増えまして、14カ所が子供向けの遊具があるというものになっております。

トイレは7カ所設置してございまして、トイレと遊具と両方備えている児童公園は、合わせて6カ所ということになります。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） トイレと遊具を併設されている児童公園が6カ所、28カ所のうち6カ所なんですよね。

この数字を聞いてですね、大変驚いておるといのはちょっと大げさかもしれませんが、28公園ある中で、4分の1しか十分な利用ができないというように判断をいたすところでございます。

28カ所の数といえばですね、よそから転入されてきたお母さん方にとってみたら、ああ、この市は、大変児童公園が充実していいところだなという感触を持たれてこられます。

ただ、それが実態がこういうことになると、それも崩れてしまうということです。

私はこういうものはですね、質より量ではなくて、数が少なくても、設備の整った質の良い、利用しやすい、行ってみようと思える施設が大事であろうと思います。

江田島市には、児童公園のほかに市立公園が22カ所、また港湾等の埋立地を活用した緑地も多くあり、この中にはトイレやベンチも整ったものもあります。

このような場所に、子供用の遊具を設け、保護者も安心して利用できる場とすることはできないでしょうか。

また、児童公園として様を呈していない箇所については、整理も必要と思いますが、この点をお伺いします。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 言われるとおりで、実は少子高齢化がこのように早い速度で進展しております。

先ほど議員が言われたように、いわゆる公園というのも、児童公園、それからいわゆる都市公園とか、埋立地にある公園いうよりは緑地という位置づけになっていると思うんですが、そういったものが非常にたくさんあります。

ですから、この公園にはトイレがないかもわかりませんが、すぐ近くにトイレがあるとかいうような、全体の中でですね、もう一度調査をしてですね、先ほど言われた確かにもう、公園として子供が全く遊びに行かないような公園もあります。

非常に変な場所にあるような、つじつま合わせのために、どこでもいいからその公園にしときゃいいというような形で作ったような公園があつて、利用が全くないような公園もあります。

時代の流れでですね、こういう高齢化したらですね。小さい子供よりはむしろ高齢者の健康維持のためにですね、公園もですね、児童と高齢者の、いわゆる高齢者健康器具とか何とかいう、器具いうんですか、そういったものが今は、結構都会の方では高齢者のための健康器具、公園の中に高齢者のための器具があつたりとかいうように、非常に世の中が変わっております。

ですから総合的にこうある場所とか、ある数ですね。数とかそれから公園の内容、議員が言われたように、中身を充実した内容、ちょっと隣の町を海を挟んで見るとですね、呉の天応ですね、レジャー施設をつくって倒産してそのあとですね、利用のしようがないもんで、とりあえず公園に使ってみようかということで、呉の天応では、無料の公園施設をつくっておりますけれども、あそこは最近では非常にいつも車がたくさんあつてですね、親子が遊ぶのに過ごすのに非常にいい、人気を博しとるようなことで、時代はですね、地域の中に幾つ遊園地がないとだめよとかいうことよりは、むしろ数が少なくてもいろんな施設が、整つとるというような公園がですね、これからは必要じゃないかという考えもしております。

先ほど言いました、こういう施設というのは、子供向けだけではなくに、高齢者の方がそこで背中を伸ばしたり、体を伸ばしたり、ちょっと体を動かす運動をすると、遊具でそういったことができる遊具がありますんで、そういったいろんなことを相対的にですね、一度考えてみる必要があるんじゃないかと、その時期に来とるんじゃないかというように考えております。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） ありがとうございます。

市長が言われたようにですね、高齢者と子供たちが一緒に集える場これもやはり理想だろうと思います。

実はあの高祖、私が住んでおるとこの沖美町高祖でございますが、高祖に児童公園が2カ所あります。

ただそのうちの1カ所は三角地で、非常に狭あいな土地の中に児童の遊具でなくて、高齢者の健康器具が設置をされております。

そこちょっと狭あいでございますね、子供も使えないような状況でございますので、やはりそ

の近辺に港湾の緑地帯がございまして、昔のゲートボール場があります。現在使われておりません。で、すぐそばにはいわゆるベンチもありますし、砂場もありますし、トイレもあります。

そういうところをですね、お母さん方は簡単な遊具でもいいから設置をしてもらえないかというような要望を聞いておりますので、ぜひそういう総合的な見地からですね、検討を進めていただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

次に、最後にですね、保育園の園庭開放について再質問をいたします。

園庭開放は、10カ所の保育園のうち、小用保育園と鹿川保育園では、毎週月曜日から金曜日まで毎日、切串保育園が月3日、江田島保育園、三高保育園が月2日、他の保育園は月1日、開放時間はいずれも、午前10時から11時までの1時間となっていますが、各保育園で、このように取り組みが違う理由をお聞かせください。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 園庭開放については、各保育園で自主的にその取り組みをまかせておきまして、できれば子育て支援センターで調整をするのが一番良かろうかと思っております。そういう状況で、保育園に現在ではまかせておるということでございます。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） 私はですね、同じ江田島市民でありながら、各保育園で取り組みが違うというのはどうかと思っております。

やはりあの等しくですね、子育て環境を享受させるためには、やはり全保育園が同じ取り組みをすべきであろうとこのように思いますが、どうでしょうか。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 御指摘のとおり、同じ条件でサービスを利用するというのが本分であろうと思っております。

今後において、子育て支援センターを中心にですね、各保育園を交えて調整していきたいと考えます。

以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） ぜひよろしく願いをしたいと思っております。

再度申し上げますけれども、保育園は保護者の事情で家庭で保育できない子供たちを保育するだけでなく、小学校という、次のステップへ進むための場でもあり集団生活を体験できる最初の間であると思っております。

保育園に通っている子供たちの保護者は、保育園への送迎等やお便り帳などで、保育のプロである保育士に子育ての相談等、容易に受けることができます。

一方、家庭で養育されている保護者の皆さんは、子育て支援センターを利用するしか現状ではありません。

身近な保育園の園庭開放を通じて、精神的、体力的にも、日々変わっていく子育てについて、保護者の相談に応じたり、園庭で子供を安心して遊ばせることのできる環境づくりは、市直営の保育園であるからこそ、できることと私は思います。

最後に、市長の答弁をお願いをいたします。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 江田島では現在のところ、全施設がですね、公営の保育所なわけなんですけれども、保育園というのは、両親が働いたりするために、いわゆる保育に欠ける子供を預かっというわけなんです、そのほかの、先ほど私の答弁に対しまして、その他の子供は保育園、現在通園してない子供もおります。

そういった部分では、その部分が子育て支援センターの方へですね、行っているいろいろ相談したり遊んだりしとるようなわけなんですけれども、全体的に言いますと議員が言われるように、就学前には集団生活を必ず経験をさす、ささない小学校入ってからの集団生活に支障が出るということなんで、今日のように、非常に少子化しとる中で、一人一人の子供というのは、江田島市にとりましては、非常に大事な子供たちですので、そういった子供たちがですね、発達する段階でですね、いろいろ障害があるようなことでは困りますので、さまざまな知恵を出しまして、公共としてできる範囲でですね、一生懸命子育てをするお母さんの支援、また子供たちの成長を促進するような施策をしていくつもりでおりますので、いろいろな市民の皆さんの、我々市民の皆さんのいろんなニーズとかそういったものも聞いているつもりでございますけれども、場合によってはやはり、十分我々の耳に届かないということもあろうかと思っておりますので、いろんな場を通じてですね、子育ての問題とか、こうすればよくなるんじゃないかということがありましたら、どんどんお教えいただければ、それに対して取り組んでいきたいと思っておりますので、今後とも一つよろしくお願ひいたしたいと思っております。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） ありがとうございます。

ただいまそれぞれ市長さん、また福祉保健部長から答弁をいただきました中でですね、やはり検討していただくという言葉はいただきましたが、やはり検討というのは大変難しい言葉でございますので、実際にこれが実施に向けて、具体的な取り組み、また具体的な計画を立てることが大切であろうとこのように思います。

先般、6月1日発行のですね市議会広報の中に、沖美町のお母さんのいわゆる投稿がございました。

やはり子育て支援の関係でですね、この方は遠くから市内に移ってこられてですね、現在御主人がカキ養殖の手伝いをされておるんですが、やはり来た時点でですね、いわゆるそういう児童公園等近くに遊ぶところがないということですね、ぜひとも先ほど申し上げたような緑地帯とか、せつかく使える広場があってもですね、行っても、極端に言えば、時々草刈りはされておるんですけども、草が生えておる、遊具もないというようなことを言っておられます。近くにそこは、先ほど申し上げたようにトイレもありますし、涼しい木陰もありますし、ベンチもたくさんございます。

そういうところをしっかりと使えるものにしていただきたいと思っております。

子育て支援に対する市の力強い取り組みをお願いをいたしまして、私の一般質問を終わります。

ありがとうございます。

○議長（山根啓志君） 以上で、2番 酒永議員の一般質問を終わります。

次に、7番 上松英邦議員。

○7番（上松英邦君） 傍聴者の皆様、午前中に引き続き大変お疲れさまです。

7番議員の上松です。

通告に従い、子育て支援について一般質問いたします。

先に質問されました酒永議員の子育て環境についてと、少しダブる点があると思いますが、なるべくダブらないようにしますので、お許しをいただきたいと思ひます。

それでは、質問いたします。

少子化が進んでいる中、子育て世代の人たちが、安心して健やかに暮らしていくため、子育て支援を進めていく必要性を強く感じます。

そこで、次のことについてお伺ひいたします。

一つ、保育園に通っていない乳幼児やその保護者にどのような子育て支援を実施しているのか。

また、子育てサークルとどのような連携を行っているのか、お伺ひいたします。

二つ目、保育施設の老朽化と耐震化対策についてお伺ひいたします。

三つ目、乳児・未満児保育、保育時間の延長や土曜・日曜保育など、新たな子育てサービス等の拡充についてお伺ひいたします。

四つ目、江田島保育園の老朽化により建て替えをする場合は、旧江田島小学校跡地を利用して、子育て施設、支援施設、病児保育園の増設、高齢者の活動施設を併設し、多世代の交流が図れるようにすることが望ましいと考えますが、市長の所見を伺ひます。

以上、よろしくお願ひいたします。

○議長（山根啓志君） 答弁を許します。

田中市長。

○市長（田中達美君） それでは、子育て支援についての御質問にお答えいたします。

まず、1点目の保育園未入園の乳幼児やその保護者に対する子育て支援や、子育てサークルとの連携についてですが、近年我が国では、少子化、核家族化、女性の社会参画により、子供を取り巻く環境は大きく変化しております。

こうした中、子育て中のお母さん方は、育児に対し不安や負担を感じていると言われております。

孤立、ひきこもりや不登校、さらには虐待といった子供の健やかな成長を妨げる障害を発生させないために、子育て親子が気軽に利用できる交流の場として、子育て支援センターや児童館があります。

こういった施設では、子育てに関する相談、子育て支援情報の発信や親子交流イベントなどを実施しています。

今後もより多くの方に、気軽に利用していただけるよう、周知に努めます。

また、子育てサークルとの連携についてですが、現在、市が把握している自主活動グループは5団体あります。

子育てサークルについては、自主的に自立した団体であり、各団体で活動範囲や内容も異なっております。

子育て世代にとって、共通の悩みを持つ最も身近な仲間であり、今後これらのサークルが互いに高め合い、大きな輪になるよう、団体間の調整役として、情報交換の場を提供するなどの支援策を図りたいと考えております。

2点目の保育施設の老朽化と、耐震化対策についてです。

保育園を始めとする子育て関連施設のほとんどが昭和50年代に建設されており、老朽化・耐震化対策は喫緊の課題となっております。

子供たちが安全な施設で親が安心して預けられる環境を整備するため、現在、子ども子育て会議に諮問しております「子ども・子育て支援事業計画」の内容を精査し、計画的に整備したいと思います。

3点目の延長保育や土曜・日曜保育などの子育てサービスの拡充についてですが、現在、保育園では、未満児の受け入れをはじめ、一時保育、延長保育、土曜保育を実施しております。

しかし、昨年実施したニーズ調査では、こうした保育サービスの拡充に向けての要望が高まっています。

こうしたことから、保育サービスのさらなる拡充についても、「子ども子育て会議」で、これからの子育て支援のあり方について、検討していきたいと思っております。

最後に、4点目の保育園の老朽化に伴う旧江田島小学校跡地の活用と、各種子育て支援機能と高齢者の活動施設の併設についてです。

先ほどの答弁と重なりますが、保育施設の老朽化対策は、江田島保育園のみならず、市全体の重要な課題と認識しております。

課題解決のためには、建て替え、または大規模改修などによる施設整備が必要になると思っておりますが、新たに建設するか既存施設を改修するかについては、児童数の推移や子育て支援事業計画の内容を総合的に勘案し、将来を見据えて最も効果のある方法を検討したいと思います。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 7番 上松議員。

○7番（上松英邦君） 再質問させていただきます。

まずですね、今は子供の数が少のうなっというて言葉では言うんですが、実際どのぐらいの数がちょっと今調べさせていただいたんですが、5月1日現在ですね、今江田島市の人口が2万5,700とび4人です。65歳以上が1万130人です。高齢化率は40.29%になりました。

前回質問させてもらった時は、39%でしたが、この3カ月の間にもう40%の大台になりました。それから中学生以下の子供さんですが、全部で2,232人おります。たった2,232人です。率に直しますと8.88%です。

中学生が4校で461人、小学生が7校で886人、小学校入学前ですが、先ほど市長が言うたんとちょっと数字が、4月1日現在、5月1日現在ちょっと違うんですが、一応885人で、保育園には、10の保育園で481人、保育園に入るまでの子供さんが404人です。

要するに、中学生以下の子供が2,230人しかおりません。

やっぱりこのどういうんですかね、子供をいかに大切に育てていくかというのが課題になると思います。

それで、25年ですよ、25年度にですね。

生まれた赤ちゃんがですね、143人です。

143人。

亡くなった方が494人です。

ということで、これを差し引いたらですね、自然減少が351人です。

これも全国的にも、もうこういう減少幅でいっていると思うんですけども、311人はもう自然に亡くなっているのか、人口が減ということになってます。

昨年5月に立ち現在の人口が2万6,220人で、このたびの5月1日が2万5,704人ですから、1年間の間に516人の人口の減となっております。

そういうことは、毎年500人ぐらいずつ減ってきてるわけですから、もうどういうんですかね、2万人切るようなことも、現実的になるんじゃないかというように思います。

そこでですね、先ほど子ども会議ですよ。

あれを4回ぐらいもうしているということですが、具体的にどのような内容のことをされてるのか質問いたします。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 子ども・子育て会議の中でですが、保育園の数であるとか、今後先ほど言われたように子供さんが少なくなるということで、保育園のどういうんですか、再編、そういうものであるとか、建物の老朽化、耐震化そういうものを会議の中で委員さんの意見を吸い上げております。

○議長（山根啓志君） 7番 上松議員。

○7番（上松英邦君） そうということで、4回されてるということで、僕もちょっと中身を読ませていただきましたけど、あとおいおい、話をさせていただきます。

まず最初にですね、子育てサークルがですねどのくらいあるかというのは、さっき市長の答弁で5団体ぐらいあるということですけど、江田島市内に嫁いできてですね、もうだれも知り合いがない中、同じ悩みを持つ保護者同士がですね、知り合う場所でもあると思うんですよ。

それは、子育て支援センターもありますけど、子育てサークルもあると思います。

実際、5団体とですね子育て支援センターがどのような連携しているか、情報交換ですよ、その辺年に何回かそういう会議を開いとるのか、いろいろな要望を聞いているのか、その辺のそこをちょっと教えてください。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 子育てサークルとの連携でございますが、回数は非常に少なく、年1回でございます。その中で、サークルの中で代表者とその情報交換、主には情報交換そして加入者の募集とかそういう意見交換ですね、そういうものを主にやっております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 7番 上松議員。

○7番（上松英邦君） 恐らく五つの団体があっても、それぞれ温度差が多分あると思うんですよ。

一つのグループは四、五人が集まってただそういうんで話をしたりとか、ある団体によったら、ある程度組織的に動いたりとか、いろんなことがあって、なかなかどういうんか全部で同じようなことはできないと思うんですけど、その中でですね。

たぶん子育てサークルでも、すごく力入れているような組織があると思うんですよ。

そういう方の悩みいうんは、どうしても自分らが活動するときの拠点ですよ、拠点が無いというような話もよく聞くんですよ。

それで、どっか空き家みたいなんがあるとか、例えば学校の空き家、学校があいておるところとか、今だったら幼稚園、江田島幼稚園の跡がありますよね。

まああいうようなところでも、子育てサークルの人らがですね、もうそれちょっと貸してほしいとかあるんじゃないですか、もう難しい手続、例えばなしですね、すぐ貸してあげるようなことも一つの方法じゃろう思うんですけど。

どのようにお考えですか。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 先ほど酒永議員さんの質問の中にもありましたが、公共施設の未利用じゃないですが、例えば老人集会所であるとかそういうものが利用できないか、そこら辺も検討して関連する部局と調整しながら、どういんですか会場の提供という形で、考えてみたいと思います。

○議長（山根啓志君） 7番 上松議員。

○7番（上松英邦君） なかなか保護者の方も若い保護者の方でね、そういう手続を何とかいうのはなかなか難しいとは思いますが、なるべく一生懸命頑張ってる保護者の方には、そういう手を差し伸べてあげてください。

よろしく願いいたします。

それでは、続きまして耐震化と建て替えのことなんですが、市内には10の保育園がありますね。ほとんどの保育園が、先ほど市長の答弁がありましたように、昭和50年の前半に建てております。

1番古いのは柿浦保育園の昭和47年で、築42年が経っております。

それで新耐震基準をクリアしているのは、三高保育園の平成7年、建ててますね。

で、大古保育園が昭和57年、の2保育園だけです。

あとの八つの保育園は、まだ耐震化の工事もしていないという状況ですね。

今小学校とか中学校は、わりかし建て替えとかいろいろしてますけど、この建て替えとか耐震化は、子育て会議とか、それで今からの人口動向とかいろんな考えてやるんですけど、どうしてもまあ、その中でですね、老朽化している施設に実際子供さん入っているわけなんですよ。

それで、例えば保護者の方からいろいろ聞いたりするんですが、例えば老朽化で雨漏りがしたりとか、ドアが閉まらないとかトイレのドアが閉まらない。で、例えばトイレがですね、昔の和式ですよ。もうそのままの状態じゃいうんですよ。

例えばそれを洋式に変えてほしいとか、それでエアコンの設置ですよ、大きいみんな

が集まるようなところがありますよね、保育園児の。そういう多分要望がいろいろあると思うんですよ。

建てかえとか何とかいうのは、今の子育て会議のもう結果を見るんでしょうから、それはなかなか難しいと思いますんで、今の例えばその老朽化に対する要望は、各園から上がってきていると思いますけど、その辺の改善はどのようにされているのでしょうか。

お伺いいたします。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） まず、トイレのお話でございますが、乳児用、0歳から2歳の子供たちには全て洋式で対応できるようにしております。

要するに、おまるですよ、そういうものでございます。

年少、3歳以上の子供さんについては、和式と洋式を併用できるようにしております。

といいますのは、近年ではほとんどの家庭では、洋式が普及しとると思いますが、その後、保育園を卒業して、卒業といいますか、今度、小学校上がります。

その時に、洋式ばかりではなく、和式のトイレもあると思います。

そういうために小学校へ上がるために、そういう和式のトイレも経験が必要じゃということで、和式のトイレも置いております。

そしてエアコンでございますが、エアコンの設置については、全ての保育園で既に設置されています。

これらのエアコンなどの修繕についても、今熱中症対策とかそういうものが非常に心配されますので、去年の修理でございますが、大古保育園、柿浦保育園、飛渡瀬保育園などで簡単ではございますが修理をしたりしてます。

そしてエアコンの設置、設置といいますか、もともと古い物があつたものを取り替えたりというのが、中町保育園、宮ノ原保育園、鹿川保育園で行っておりまして、必要に応じて修繕、取替えは、行っております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 7番 上松議員。

○7番（上松英邦君） 各園からもいろんな要望がありましてですね、大事な子供さん預かるとるわけですから、なるべく、予算の関係もあると思いますけど、よろしくその辺のところはお願いいたします。

それとですね、今の飛渡瀬保育園の保護者からですね、ちょっと要望みたいなんがあつたんですが、例えば、飛渡瀬保育園入って園長室うんか職員室みたいなんがあつて、その隣に10畳ぐらいの部屋があるんですが、そこに0歳児から3歳児の子供さんが10数人ぐらい入っているわけなんですよ。

そこに保育士さんも3人ぐらい入って、すごく狭い環境の中で、保育している状況なんですよ。

これ今飛渡瀬保育園はですね、この10ある園の中でも1番狭い施設で、延べ床面積が561ですかね、この10園の中で1番狭い施設で子供さんの人数が61人と多いんですよ。例えば、今のその10畳の部屋に、十何人はちょっとかわいそうな気がするわけですから、例えばどっか部屋が倉庫みたいにあるんじゃないかと、そこきれいに空けて、その

道具をどっかに移してから部屋を空けて、十何人の子供さんを二部屋にするとか、やっぱり現在通っている子供さんのそういう環境とか何とかいうのも気をつけてあげにやいけんと思うんですが、その辺のとは把握しとってですかね。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 確かに飛渡瀬保育園においては、狭い環境にあるというふうに聞いております。

ただ0歳児、1歳児、2歳児でございますので、どうしても畳の部屋でないと対応は難しいというふうに伺っております。

先ほどの議員さんがおっしゃられるような、そのスペースがあれば、そういう対応も考えたらどうかということでございますが、現在、早急に対応しなければならない問題だと思います。

先ほども言いましたが、子ども子育て支援会議の中で、そういうものも含めて、検討している状態でございますので、そこで最終的には、答えを出したいと考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 7番 上松議員。

○7番（上松英邦君） はい、なるべく早くですね、そういうそれぞれ園で要望がありましたらよろしく改善のほどお願いいたします。

続きまして3番目のですね。

例えば今、待機児童はいないと思うんですが、実質的には幼稚園がないわけですから、3歳児ぐらいの子供でも、保護者の人が働いてなかったら、保育園に行かれんいうことですから、厳密に言うたらそれももしかしたら、隠れ待機児童みたいな感じになつとると思うんですよね。それも含めて、今の子ども会議では、認定こども園とかいう制度も利用して、来年4月以降にそういうことを施行するような話になつとると思いますから、待機児童は一応いないということと認識しております。

あと延長保育と一時預かりの現状ですが、例えば延長保育は、小用、中町、三高、大古、柿浦。一時預かりが小用、中町、三高、飛渡瀬保育園ですよね。

延長保育は、一応6時45分までですかね。で、一時預かりは午前8時から午後4時ということですけど。

本来なら、各園に全部そういう制度があればいいんでしょうけど、一応これを見ていると各町に一つずつということなんですが、実際今、利用状況はどの程度なんか教えてください。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 利用状況でございますが、まず延長保育、これが23年度、五つの園で、694名そして24年度は663名、そして25年度が574名というふうの実績が上がっております。

また一時保育でございますが、利用者数は23年度が、延べ人数で言いますと923、そして、24年度は、659。そして25年度が710名。実数で言いますと、23年度は、274名。そして24年度が152名、25年度は、172名でございます。

以上です。

○議長（山根啓志君） 7番 上松議員。

○7番（上松英邦君） 一時預かりなんかはどうしても保護者の人が育児にストレスを感じたりですね、そういうんで利用するんじゃないと思うんですけど、本来ならば全部の園にあるが一番いいんでしょうけども、なかなか保育士さんの確保とか何か難しいのがあると思うんで、今後の今の子育て会議の分も含めて、またいろいろと検討していただきたいと思います。

それとあと、子育て支援センターが、土曜日と日曜日が、閉まっていますよね。

要は、保護者の人が開放してほしいとかいう声もあるんですが、なかなかそうすると保育士さんの数も足りないとか、どういうんですか、土日開けるのは、難しいんがあると思うんですけど。

例えば一つの方法としたら、保育園を退職された方を利用するというのも、一つの手じゃろうと思うんですけど、その辺は、土日開けてくれとかいう要望はかなりあるんじゃないかと思うんですけど、どうでしょうかその辺は。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） 大変申しわけありません。

4月にこの立場に立って、そういう情報はまだ受けてないですが。

○議長（山根啓志君） 7番 上松議員。

○7番（上松英邦君） 恐らく土曜日、日曜日もね、働いているお母さんもおるし、そこに行って、いろいろ遊びたいというんもあると思いますけど、そういうのをまた把握しとってください。

それでは最後の質問にいきますけど、子ども子育て会議では、すべての3歳以上の児童を受け入れる施設を設置する必要があることから、認定こども園を27年度入園募集に向けて手続を開始するとありますが、その中で見させてもらおうと、認定こども園江田島として小用保育園、認定こども園能美として鹿川保育園、認定こども園大柿として大古保育園の3カ所を計画ではしているみたいです。

それで、保育園と幼稚園の機能ということは、保育園児ということは0歳から5歳までの園児を1日8時間預かるんが、厚生労働省の福祉施設なるんで、これが保育園と認識しております。

幼稚園は、3歳から5歳の子供1日4時間預かる学校ということで、文部科学省の管轄ということで、これも認識しとるんですが、これが保育園と幼稚園が一緒になった認定こども園を来年の4月に向けて、手続をするということですが、まず、それはそういう手続で来年4月からすれば間に合うんかどうかちょっと教えてほしいんですが。

○議長（山根啓志君） 島津福祉保健部長。

○福祉保健部長（島津慎二君） その手続きですが、今現在子育て支援センターにおいて、県と調整しながら進めております。

なるべく27年度間に合わせる必要がありますので、早急な対応に努めたいと思います。

○議長（山根啓志君） 7番 上松議員。

○7番（上松英邦君） その子ども子育て会議を踏まえてですね、これをいろいろ見さしてもろうたら、例えば、1学校区域に1保育園を基本とするというのがありました。

江田島町でいうと、江田島北部エリアから切串小学校区で一つ、江田島中央エリアは、江田島小学校区で一つ、大柿エリアは大古小学校で一つ、能美南部エリアは鹿川小学校区で一つ、能美中央エリアは中町小学校区で一つ、沖美エリアは三高小学校区で一つという、どういふか、六つの保育施設を将来的には考えているようですが、そこでですね、江田島保育園は、交通量の非常に多いところに位置しまして、老朽化がかなり進んでいると思います。

昭和51年に建っていますから、もう築40年ぐらいになると思います。駐車場も少なく、保護者は送り迎えが非常にあそこは危ないように思います。

ちょうど僕らもよくあそこ通るんですけど、ちょうど駐車場が道路際に面してるもので、保護者の人がそこ車とめて、子供を送り迎えするんですが、ひどいときになったら道路の向こう側に車をとめて、横断歩道を渡らずに子供連れて、車に乗せるような光景も見ます。もう事故がないのが不思議なくらい、危ないようなところにあります。

そこで、建て替えをするときはですね、これ一つの案ですが、近くに旧江田島小学校の跡地があるわけですから、そこに認定こども園を建ててですね、幼児保育に対応できるような小児科が併設されることが1番理想と思います。

そういう施設を建てて、変な話小児科の先生を公募するとかいうのも一つの方法じゃろうと思うんですが、そこでそれがなかなか難しいときは、例えば、園児が熱が出た時なんかですね、保護者に連絡して、たぶん37度5分出たら、保護者に迎えに来てくれとかいうて、言うようなんですよ。

なんで広島や呉の方に勤めとったらですね、なかなかせつかく仕事見つけたのだから、そがいにして帰れんと思うんですよ。

そういう時に、あそこに例えば小児科なり隣に病院がありますから、そこでちょっと預かってもらうとかいうたら、ものすごい保護者の人も精神的にも楽し、仕事も落ちついてできるいうか、いうのが1番保護者にとっては、小児科いうんか病院いうんが1番やっぱり悩みの種と思うんですよ。

ここにやっぱり住み着かんいうんは、それが一つのやっぱり原因でもあると思います。

そういうのができれば1番いいんですけど、そういうのを併設して、で、例えばそこにまた子育て支援センターをもってくる。それで子育てサークルの拠点となるような事務所を置いて、高齢者が集うような場所ですね、老人集会所、将棋とか碁ができるような感じ。

例えばその周り、デイサービス、で外では、グランドゴルフしますね。お年寄りの人が。月に1回、高齢者の方が隣に江田島小学校がありますから、江田島小学校の児童と給食を食べると。いいですね、すごく。未満児、保育園児、小学生、子育てサークルの保護者、高齢者の交流にすごくつながると思うんですよ。

どうしてもお年寄りの人は、グランドゴルフにしても、施設にしても、どうしてもお年寄りばかり集まるとしたら、脳の活性化にもなかなかありませんし、子供と接することによって、やっぱり生きがいも感じたり、脳の活性化にもなると思うんですよ。でそこで、例えば認定保育園ですから、幼稚園の機能を持つわけですから、例えば、退職した先生がですね、ちょっと来られて、ボランティアでいいと思うんですよ。

今度1年生上がる子のために、鉛筆の持ち方とか、例えば1年生入って、僕らも1年生

の授業見に行かしてもらうんですけど、なかなか4月ごろはですね、じっと40分ほどいすに座っとくんが難しいような感じなんですよ。

じゃけんそういうのを指導してもらおうとか、で市内に住む外国人の方がおりますから、その方を招いて、英語をちょっと教えてもらおうとか、いろいろなことが工夫ができると思うんですよ。ほいで高齢者から昔ながらの遊びを教えてもらったりね。

ほんで早朝、延長保育、土曜日、日曜保育の要望がありましたらですね、保育士さんが恐らく不足するので、退職した保育士さんをお願いしたりとか、いろいろなそこで、みんなの集う場所になって、非常にこれはみんなにとって喜ばしいことと思うんですよ。

やっぱり思い切ってそのぐらいして、子育ての環境をええがにして初めて、江田島に住んでよかったねとか、やっぱ江田島に住みたいねとか、いうようなことがわいてくると思うんですよ。

ここ環境もいいところですし、前に警察もあるし、自然も豊かですから、例えばそういう、広島県一ぐらいのつくったらですね、市長ね、広島の方からもぜんそくがある子供もつとる、ほいじゃ行ってみようかとか、空き家があったら、そこへね、空き家に住んでみようとか、それも空き家対策になりますし。

是非ですね、あそこに何か活用するんじやったら、前回も同僚議員が、そういうような話をしましたが、ぜひそういうことを一つ、テーブルの上に乗せてですね、考えてみてください。

市長ちょっとお願いいたします。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 非常にいろいろ御提案いただきまして、ありがとうございます。非常に微妙なところがあります。

というのは、仮にあの場所をですね、そういう認定こども園にしますとですね。やはり一定の規模いうんですか、一定のやっぱり子供がいないとそういったものをつくることは、なかなか実際は難しいと思います。

そうすると、ほいじゃ今のままでいいかいうと、今の場所は先ほど議員が言われたように、非常にこう、交通の危険性のあるような車がたくさん通りますので、非常に危ないと。

築40年たつとると、いずれ近いうちにはどうしても建て替える検討にもう入らなければいけないということがあります。

それともう一つ、1番大きな課題は、江田島市全体の保育の問題についてですけれども、非常に延長サービスなどがまだ全く行き届いておりません。

というのは、非常に短い、夕方も早い時間にもう預かるのを打ち切っております。

仮に例えば広島市へ働きに出るとですね、5時半まで仕事した方が帰って、定時で帰って子供を迎えに行くと、5時半に会社を退社して、そう迎えに来ることになると、7時近くなります。そうすると、ちょっと残業するとすぐ8時、9時になりますんで。

今は、遅い時間とか早い時間を預かるのは、江田島市の保育所全体では、私は欠けてるんじゃないかという、そこらのサービスというのは本当ですと、喫緊の問題なんで、働く人のことを考えると、もうちょっとやっぱり長い時間をですね、保育すること考えにやいけんのじゃないかと思えます。

それと、今度の計画の中で認定こども園にするというのは、3歳児の子供でお母さんが働いてない人は、仕組みとしては、預かれないようにはなっておりますけども、実際には実は預かっております。

3歳以上の方も、お母さんが働いていなくても、実は江田島市では預かっておるわけなんで、議員が言われるように、未就学の子供はいないという現状になっております。

ただ、そういう法律外のことをしておりますんで、本来の姿へ戻すのは当たり前なんで、そういった本来の姿に戻すことになると認定こども園をつくるしかありません。

そういったことで、今認定こども園の設置についての申請の準備に入っておりますけれども、認定こども園をつくるということになって最初に言いましたように、一定の規模の子供が預かれる施設じゃないとですね、中途半端になりますので、そうすると、どの保育所とどの保育所を残して、どの保育所をどうするかというようなことが、必ず行政サイドとしては、出てきます。

そうするとこれまでもそうですけれども、例えば閉園するということは非常にたくさんの長い時間がかかったりとかいろいろな労力がかかったりとか、様々な問題で出てきますので、早い時点でこうするとかいうことは非常に難しいんですけれども、あの場所は、非常に江田島町のいい場所にありますので、江田島保育所をあの場所にかわすということについては、非常にいい方法じゃないかと思っておりますけれども、ただあれをかわすことになるとですね、周辺の宮ノ原保育所があります。小用、宮ノ原それから、飛渡瀬ですか。

そういったとこと関連をどうするんかとか、どこにどういった機能を持たすんかとか、全部の保育所にすべて機能を持たすいうことはできませんので、どの保育所にどういった機能を持たすかいうことは、たぶん今会議の中で検討しとんじゃないかと思っておりますけども、そういったもの全体を考えながらですね、勘案しながら、認定こども園を設置する方向へですね、持っていきたいと思っております。

地理的に考えて、江田島に1カ所すれば、例えば、呉へ行く、通勤するための入り口になると、例えば大古の保育所へ認定こども園を設置するとかいうようなことで、もし1カ所で足りれば1カ所で認定保育園で、3歳以上の子供も預かるのにお母さん方が、いいよ江田島まで行きゃ、そんな距離じゃないんだからいいよ、ということであれば、1カ所の認定保育園で済むと思っておりますけども、さまざまなことが今、今の段階ではさまざまなことが想定したり考えたり、保護者のニーズがありますので、そういったもの全体をですね、よく検討してですね、計画を立てるつもりでおりますので、またこういったニーズがあるよということがあればですね、お知らせいただければと思っております。

○議長（山根啓志君） 7番 上松議員。

○7番（上松英邦君） 子ども子育て会議で、いろいろな議論がなされとると思っておりますから、それを踏まえてですね、もしそういう認定こども園が、あそこの江田島小学校区で一つということになりましたら、あそこに、場所的にはいいと思っております。

ほいで、それプラスさっきから同じようなこと言いますが福祉施設のようなんもして、お年寄りから子供まで集うような場所にしたらいいと思っておりますんで、もう熱く熱望しておりますんでよろしく願いいたします。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 先に福祉保健部長が答弁した中でですね、いわゆるサークル活動の団体のことがちょっと話題に出てですね、福祉保健部長は、所管の施設を管理しとる、所管の課と検討して前向きに使用をできるようにしたいという答弁だったと思うんですけども、ただちょっと修正しときたいのは、サークルでもですね、我々サイドから言いますと、本当の自分のただ趣味いうんですかね。

ちょっと偏った考えとか、偏ったことのサークルなどもありますので、それをほんとに、子供とか保護者にとって、有益なんかということは、どうかねというような疑問符が付く、ただサークルであれば何でも公の場所貸しますよということは、福祉保健部長の答弁ですと、どんなことでもサークル組めば、公の施設を貸しましょうという言い方だったと思うんですけど、やはりそのサークルいうてもいろいろありますんで、場合によったら、そういうことはないと思いますけども、宗教的な色合いの濃いようなとか、政治的な濃いような団体がつくってですね、表向きはサークルの、子育て何とかいう名前つけて、設置したりする場合がありますので、サークルについてはですね。十分検討してですね。

何でもかんでもサークル組めば、名前が表に子育て何とかいうのがあれば、はい、無条件で貸しますよということはないんで、福祉保健部長の答弁のちょっと修正さしていただきました。

○議長（山根啓志君） 7番 上松議員。

○7番（上松英邦君） とにかく一生懸命子育てしているお母さん方がいるんは確かですから、やっぱりそういうお母さん方が一生懸命して、この江田島に住みたいという希望あるわけですから、やっぱりそういうのを尊重してですね、若い今のお母さん方が住んでくれんにゃ、さっき140何人もありましたけど、結局それが小学校上がるまでにこんなところは不便なけんいうて、広島や呉の方へ行ってしまうたら何にもならないと思うんですよ。定住促進は定住促進で大事ですけど、やっぱり子供が住み着くんも一つの定住促進ですから、その辺のどこ、一生懸命若いお母さん方頑張っておるということも頭の中に入れてください。

これで私の質問を終わります。

○議長（山根啓志君） 以上で、7番 上松議員の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

14時25分まで休憩いたします。

（休憩 14時10分）

（再開 14時25分）

○議長（山根啓志君） 休憩を解いて会議を再開いたします。

○議長（山根啓志君） 3番 上本一男議員。

○3番（上本一男君） 通告に従い、質問させていただきます。

質問事項は3点。

まず第1に、能美海上ロッジの運営方法についてお伺いします。

現在、能美海上ロッジは国民休暇村に運営会社として任しておりますが、執行部はそれについて満足しているか、その辺ちょっとお伺いさしていただければと思います。

2番目、ふるさと納税について。

全国的に人口減少が続く中、予算規模の縮小は前年ひどくなると考えられます。

その中で、ふるさと納税についてどのように考えているのか、執行部の意見を聞かせください。

3番目、公共交通のあり方について。

江田島市交通局は赤字続きで、来年から民間に任せようとしております。

現在、市交通局、江田島バス、江田島汽船等のダイヤについて、お互い話し合いを密にしていると思いますが、減便により市民になお一層の不自由を強いることとなりますが、どのように考えるか、その辺を聞かしてください。

以上、よろしく願いいたします。

○議長（山根啓志君） 答弁を許します。

田中市長。

○市長（田中達美君） それでは、お答えいたします。

まず、能美海上ロッジの運営方法についてでございますが、御承知のとおり、能美海上ロッジ、シーサイド温泉のうみ、サンビーチおきみは、3施設を一括して平成21年9月から指定管理者制度のもと、平成29年3月末まで株式会社休暇村サービスが運営しております。

3施設合計の運営収支につきましては、現在、赤字運営で厳しい状況が続いていますが、更なる経営改善が求められているところであり、休暇村サービスは、全国の宿舎の運営で蓄積されたノウハウを持っており、成功事例の導入など積極的な取り組みを期待しております。

3施設の運営では、営業収支がマイナスであることや、施設の老朽化などにより、市が負担する修繕費の増加が課題となっております。

今年度立ち上げる、能美海上ロッジ整備検討委員会の中で、専門家の御意見を聞きながら、今後のあり方を検討したいと考えております。

次に、ふるさと納税についてお答えいたします。

いわゆる「ふるさと納税」制度は、本市では「ふるさと寄附」として、平成20年6月から実施され、「ふるさと江田島市を応援しようとする個人又は団体から広く寄附金を募り、この財源を活用し、寄附者の本市に対する思いを実現化することにより、個性豊かな活力のあるふるさとづくりに資すること」を目的としております。

平成25年度までに68件の方から御寄附をいただき、現在1,269万2,000円の累計となり、「ふるさと応援基金」に積み立てしております。

目的にもありますように、未来ある「ふるさと江田島市」をはぐくんでいってほしいという思いをまず、第一義ととらえております。

本市としましては、その送金方法にクレジットを活用することで、より簡単に納付のできる方法や、寄附をいただいたことに対する配慮として、ふるさとの香りする地域特産品をお礼として送ることなど検討しています。

これは、地域産品の紹介や活用を図ることができ、地域産業の活性化の一助になるとも考えております。

一方、財政面において、全国的には、自主財源の確保の一つとして、「ふるさと納税」

が活用されている現状もあり、本市においても、今後、検討していきたいと思っております。

続いて、公共交通のあり方についての御質問にお答えいたします。

御承知のとおり、本市の公共交通事業者は、人口減少やマイカー利用の増加により、厳しい経営状況にある中で、利用者の利便性向上や効率的な運航体制の構築に向け、それぞれ取り組んでおられるところです。

こうした取り組みの一つとして、公共交通事業者において、運行ダイヤの改正が行われることがございますが、その際は、できるだけ早く市に情報提供をいただくようお願いしております。

市としては、運行ダイヤの改正について情報をいただいた際は、必要に応じて、他の公共交通機関との接続などにおいて、利用者の利便性を極力損なわないよう、公共交通事業者の理解を得ながら調整を図っているところです。

なお、現在、市営船への指定管理者制度の導入について手続を進めておりますが、これに伴う減便は考えておりません。

今後とも、公共交通事業者との連携を密にしながら、より利用しやすい公共交通となるよう取り組んでまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） どうもありがとうございました。

では、ぼちぼち再質問をさせていただきます。

まず最初に、能美海上ロッジの運営方法についてなんですが、私はですね、前回2月の時、ハード面、建物をどうするかというようなことを僕は言うたと思うんですが、このたびは、休暇村サービス、あそこに今江田島市が任しとる、そのことに関して、ちょっと質問をさせていただきたいと思います。

前回も言うたように、私はまちから友達が来たらですね。あそこへ行ってあの食堂で海を眺めながら、江田島湾見ながら、あそこで食事するんが大好きだったんです。がですね、どうもここ最近、行こうというて足が向かんのです。

それはですね、正直に言います。行ってもね、料理が悪い、応対が悪い、行って食べようという気にならんのです。

その辺、市長さん、あっこ最近行ったこと、昼飯食べに行ったことありますか。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 時々行かしてもらいます。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） 副市長どんなですか。

○議長（山根啓志君） 正井副市長。

○副市長（正井嘉明君） 私も市長と一緒にですね、食事を。最近ちょっと足が遠のいておりますけども。最近、冬ぐらいいは何回か、鍋焼きうどんを食べに行かしていただいとります。

以上です。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） 消防長。

あなたは今ね、広島から来られて、今江田島市に雇うてもろうとる。

ほんなら江田島市のいろいろなこう施設を見て歩かんにやいけん立場です。

そのとき、ロッジへ食事行ったことがありますか。

○議長（山根啓志君） 小林消防長。

○消防長（小林 勉君） 2度ほど行かしてもらいました。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） 行って、消防長どう思われましたか。

○議長（山根啓志君） 小林消防長。

○消防長（小林 勉君） はい、個人的ではなく、仕事の団体ということで、一応宴会といたしますか、そういう格好なんで、可もなく不可もなくというふうな感じは受けております。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） 市長、副市長にしてもですね、行くのは夜行くんですよ。昼、昼飯食べに行ったりですね、そういうことは、市長あんまりなかろう思うんですよね。昼行かんと、あそこの良さ、言ううちに悪さいうのはわからんのんですよ。ロッジは、うちが江田島市がやりよんですからね。ざっと見ながらこう行って、実際にはどのような料理を出して、どのような対応しよるか、もう1回じっくりですね、皆さんが行って食べて、見て、感じてください。

なら問題点が見えてくる思うんですよ。

やっぱり市長にしてもね、なかなか言いにくいから言えん思うんですが、今の状態じゃ、絶対ええことにならん思うんですよ。

僕がこんなことを言うたらね、休暇村サービスの親分に怒られるんですけどね。ほいでもね、現実は今そうなんですよ。

あの会社は、全国36カ所かなんかやりよると思いますけど、大きいけんええんじゃないんですよ。あの会社はね、こう言うたら、あれなんですけど、市の方がやったらもうからんから、要はあの人は専門だから、休暇村1,000万つけてやってくださいというような感じで今、やってもらいよるんですけど。ここ5年たってですよ。最初、21年の9月から3月までだけ黒字で、あとはずっと一辺倒の赤字。一つもええことはないです。その辺をちょっとこれから、考えていく必要があると思います。

それとですね、僕が言いたいのは、今、ロッジ、サンビーチ、シーサイド。これ年間ずっと合わしたらですね、25年の4月の時点が1,400万の赤字でしたよね、その前もずっと赤字。いうことは、要は今の状態でいくとずっと赤字なんですよ、これはね。

今休暇村サービスは、事業計画いうて、毎年出しております。

25年の2月28日にも、出した時は、大体800万ぐらいもうかる予定でした。それがうまいこといかに、1,400万の赤字、この2月28日、今度また事業計画出してきました。

これがどうなるかわからんのですが、今、私が言いたいのは、このサンビーチいうとこ

ちょっと見てください。

サンビーチは25年の4月1日、700万の収入があったんでしょ、その時の事業計画は、2,800万ぐらいあげてくるじゃろうと。というような計画を立てて、実際には1,700万。収入は1,700万しかなかった。

この26年の2月28日の事業計画は、計画自体から1,600万いうたら、下げてきて。下げてきてるということは、縮小しよう、ここはもうからんと。できるだけせん主義でいっとる。

僕が言いたいのは、ここなんです。ということはよ、このサンビーチを例えば、22年4月から25年の4月まで、合計が青で書いてるんですけど、サンビーチの費用引いたんが、下の赤なんです。1,000万つけてあげて、サンビーチをなしにしても赤。いうことは、サンビーチをね、3点セットで任すんじやのうて、ロッジとシーサイドを運営してくれと、サンビーチはうちが考えましよう。

いろいろやりたい人、いろいろ市長がまた、いろいろこう執行部で知恵を出してもろうて、ええ会社でどっかやりたいところがあれば、探しましよう。

そういうように、僕はやった方がええ思うんですよね。

どういふことかいうたら、休暇村に対してそこまで負担をかけんいうこと。

サンビーチおきみを外すいうことによつて、借金がごつぽり減るいうんですからね。

その辺、市長その辺をどう考えますか。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） 議員さんはサンビーチを外して、シーサイドとロッジだけを運営させば、収支が改善できるじゃないかという考えなんですよ。

もともと3点セットにして、国民休暇村に委託したのはですね。その以前の会社と市とが裁判起こしました。

裁判を起こしてやっとな、その当時は議会でも何度も報告したと思いますけれども、下水道の使用料が千何百万、上水道の使用料が何百万滞納したまんまですね、払わないもんで、市としてはもうこれ以上、そういったものを払わない人らに経営を続けてもらうのは困るいうことで、とうとう裁判起こして、年数かけて、やっとなの方に撤去してもらいました。

その後をですね。そのまま利用しないんかとサンビーチをどうするんかいうたときにやはり地元からですね、地元の議員さんとかいろんな地域の方からですね、サンビーチはどうしても動かしてくれと、というような非常に強い要望があつてですね。それを離してどうかするとかいうことは、考えられない状況でした。ただし、そのときに単独であれだけ動かすという試みもありました。というのはその時に、一度単独であれだけの公募をしたことがありました。何社ぐらいだったですか、その時に、実は9社が見に来ました。興味を持って、結局は9社が来てですね。だれかが手挙げて、じゃあ私がやろうという会社が9社も来られたんで、希望が若干あつたんですけども、結局は、中身を見てですね。中身いうのは、それまでの経営の状況、収支の状況を見てですね。結局はだれも、手を挙げずに9社が全部引き上げました。

そのことから判断しても、単独ではこのサンビーチをホテル業として運営するのはもう、だれがやってもこれはもう、採算がとれないということで、地元の議会議員さんとか、地

元住民の方の要望は非常に、引き続いてサンビーチを存続させるようにというような強い要望があってですね、考えた末に結果として、3点セットで、じゃあこの三つを一体として運営することにするしかないねと。

ですから、この三つを運営する事については、当初からサンビーチは少し荷物になるよということは、想定した上での3点セットで、今日に来とるわけです。

そのときに、国民休暇村が、何とかやってみようということでやってもらったわけなんですけれども、その状況の中で1,000万ほど、委託料出すということで、話がついてですね、したわけなんです。

確かに、上本議員が言われる、今でもサンビーチを離せばですね、かなり収支が改善されます。多分わずかな赤字で済むようになると思います。ですから、ことし、1年かけてですね。これのロッジの整備方針というような委員会立ち上げておりますけれども、それの中でもですね、サンビーチを思い切って離すんかどうするかいうことは、この一連の検討の中でですね、結論を出す予定ではあります。ですから、その際にはですね。もしかしたら非常に思い切った措置を考えなければ、もうあるいはホテルとして使うということももう、採算性から言うと実際には難しいと思います。

ただその場合には、やはり地元の住民の方にも、やっぱり配慮というものが要りますので、その方法については、慎重に物事を進めながらですね、やはりやる必要があります。

そういったトータル的に、いろんな全体的の中で考えますんで、議員さんが言われるように、決して我々も今の国民休暇村の昼間のランチがですね、十分なものは思いません。

ただ一般的な状況からいうと、まああの程度の値段では、あの程度の食べもんかねというような気がします。ですから、細かいことの運営、運営の細かいことについてはですね、我々があまり国民休暇村に、ランチの出し方まで一つ一つね、こんな、これじゃどうもならんとか、どうかしろというのは、お客さんで行った方が言っただけばええんで、我々がですね、市の方がですね。口を出してですね。じゃあ赤字を負担してくれるんならわかりました。市の言うとおりにしましょう、というような話にもなりかねんので、細かいことについて市がタッチはできませんけれども、できれば、お客で行かれた方がですね。これじゃあサービスも悪いじゃないかと。もう少し従業員の教育はこうした方がええんじゃないかということ、行かれた時に、やはりそろっと国民休暇村の方へですね、支配人などにも耳打ちしていただければ、その方がいいんじゃないかと。

市が改めて言ってですね。細かいことの中身についてですね、経営方針をこうしろとか、食堂の運営をこうしろとかいうことは、私は、今の方ではできないというふうに考えております。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） 市長の考えはわかりました。でもね、やはり市がやっぱり運営しとると。市長はトップで、まあそういうもんは言えんとなるとね。沼田部長ぐらいに言わすんよ。陰で。陰でね。これはまあ、お客がええものは一つも出しよらんと。判断とか接待マナーもなってないと。どういうことになっちゃうん。ちょっと来てみんさいいうて、部長ぐらいに言わせばええんですよ。市長が行って言やあね、こりゃあ大ごとじゃのう思うてあのおう、切られるんかのおう思うけん。大変じゃけん、陰ながらね、その関連した

人がこう言わんとですね、僕は絶対ええことにならん思うんよね。なんせうちが、結局はうちが休暇村へ貸しとんですから、あれを改善さすということは、あそこのトップにわからさんことには絶対ようならんですけん。その辺を市長、市長じゃのうて、沼田さんあんたがやらんにゃ。

頑張りんさい。

○議長（山根啓志君） 正井副市長。

○副市長（正井嘉明君） 今の件はですね。実は月に1回ぐらい、だったと思いますが、沼田部長も含めてですね。運営会議を開いておりますので、その中でですね、もう少しきっちりとした意見をまとめですね。提案するなりですね、指導というところまでいかないと思いますが、一定の指定管理運営を任せておりますので。しかしながら、経営改善を図ってもらいたいと。

修繕費その他の一定のボリュームは、うちが持つておるわけですから、ある程度の要望はですね、今後出していきたいと思っております。

多分沼田部長は、よくわかりました、と。今度の運営会議には出しましょうという気持ちであろうと思えます。

以上です。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） 副市長ありがとうございました。部下をカバーするああいう気持ちというのは、僕は好きなんです。

この分は、ちょっとそういう事で。ちいとでも改善する方向。

それと、市長。やはりですね。

今休暇村が29年までいうても、経営29年3月までありますけども、もしも極端に言えば、もうからんけん手をあげるというようなことも、ある思うんですよね。

条文を読んだら、やめてもええと。そういうことがあるということは、常に3点いうんじゃのうて、時代はこう変わってますから。赤字いうんがこう見えとるんですからね。

例えば、執行部の方へあそこをやってみよう、やりたいというような、例えばそういうような方がおられたらね。

やっぱり柔軟に考えて、こういかればいい思うんです。その辺一つ市長、執行部の方、一つよろしく願います。この分はこれで終わりますけん。

2番目にですね。

ふるさと納税について、ちょっと質問させていただきます。

これは僕は、ふるさと納税いうのをですね、一般質問であげよう思ったのはですね、ここへあのこう資料入ってますけど、浜田市いうんがですね。

25年に1億1,000ぐらい納税で上げた。そのときパツと思うたんがですね。

江田島市は、今どれぐらいの納税額があるんかと。ということで、質問してもらおう思うてあれしました。ちょっとその辺、21年ぐらいから、ふるさと納税がどれぐらいあるか言ってください。

○議長（山根啓志君） 土手総務部長。

○総務部長（土手三生君） 21年にはですね。件数が7件ございまして、171万円。

22年度が8件、201万4,000円。23年度が9件で、207万5,000円。
24年度が8件ございまして、151万5,000円。25年度が16件、268万5,000円。

これは始まったのが20年6月ですので、20年6月は中途なんですけど、このときは、20件で269万3,000円。

ですから20年6月から25年度末までの総額が、1,269万2,000円という今現在の数字となっております。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） ありゃあですね、今部長から報告してもらおうんですがね。

僕よその、いろいろ近隣を調べてみたんです。ならね、この間地域おこしの分で、周防大島へ行ったんですが、ホームページでこういうようなのが、カラーでこうあるんですよ。ここらは11,000人ぐらいなんですけど、25年がね、400万ぐらい。ふるさと納税集めよるんです。24年が260、23は220ぐらい。

それから安芸高田が、広島県にあります。安芸高田がどのぐらいかいうたら、あそこは31,000ぐらいなんですけど、ことしがやはり500万。去年が400万。おととしが200万前後です。この1番人口規模を、市の規模が同じぐらいの大竹、竹原いいますとですね。これらは全然努力してない。町ですからね。町ですけんええいうわけじゃないんですがね、何十万の世界です。いうことは、うちはですね、やはりですね、どういうていやええんですか、これからいうのは、人口もまだまだ減ろういうのは、わかってますからね。ほんならそれ以上に、やはり努力せんにゃいけん思うんですよ。

そういう面では、この分を出しました。

これ今ですね、私は、部長に言ってもらおうんですが、ちょっと納税がどれだけあるかいうのを、江田島市もホームページをとっています。ならですね。これは白黒で、よいよ手を加えたようなこのあれを一応こしらえたと。一応うちもありますよ。いうような感じでね。やられとんです。

やはりね、力の入れるとこ、1億円集めようかいうようなところはですね。やはりカラーでね、まず自分のところのメインの場所をこう出してね、いろいろカラーで、1万円したらどういようにあなたは得ですよ。

特産品はこういうのをあれしますよとかね、納税するならクレジットがええですよとか、いろいろなメインをこしらえとるんですよ。

実際、こういうのがあるんですからね、財政も悪いんですが、やはりある程度、どういいうてええんですか、納税したいと。いうような、思うやはりそういうようなホームページこしらえたらええ思うんです。その辺もやってもらうために、こういう質問をこうさしてもらおうんですが。ほいで、これをやることによって、今度は島の特産品等掘り起こすことができる思うんですよ。

そういうことをやることによって、税金はふるさと納税で市も潤うと、潤うたその一部を一般の業者へも分けると、そのシステムをですね。これから、もっていけばええ思うんですけど、そこでもっていくのに第1位はですね。

僕はやっぱりね、市長。市長がね、市長が対外的には外へ出向く人。僕は副市長はやっ

ば内政をこう守っていく人というような、そういうようなイメージ持つとんですが、やはり市長、あちこち行ったときですね、やっぱりアピールすると。今は江田島市も大変じゃと。江田島市の今の現状知ってますかと。今、江田島市はこういうことやりよります。お金をくれいうんじゃのうてですね。アピールする、江田島は大変じゃということですね。そういうことをするついでに、ふるさと納税こういうことがありますよと。

それから今、江田島市から全国へいろいろあちこち出てますけど、今僕はね、この江田島市がよそと違うんはですね、ふるさとだと思ってくれるんはですね。やはり海軍兵学校だろうと思うんですよ。

あそこは、幹部候補生が日本の一流を出たえらい人が、一年間あそこで勉強するんですよ。それから、ともに飯を食い、遊び、それから勉学に励むと。それから体を鍛えると。そういう事をしてですよ。1年後に日本全国に旅立つんですよ。その人ら皆、50、60になったら一国の皆トップへおるんですよ。そういう人らは、2番目のふるさとどこかいうたら、江田島と言うんですよ。そういう方がおる、そういう人に対して、上にそういうことを伝えるということによって、その人らまあ江田島市が大変なら、自分がいや、その下には部下がようけおるんですからね。まず、そういうところを市長に、強引にもうちょっとアピールしてもらいたいんですが。その辺一つ。

○議長（山根啓志君） 田中市長。

○市長（田中達美君） いわゆるふるさと納税ですから、江田島に縁のある方ということになりますが、今のところは江田島市に本当に縁のある方というのは組織的には、東京の方で住んでおられる方が、大柿高校の同窓会関東支部のメンバーが少しと、それから江田島町出身の人らが、えたじま桜くらぶのメンバー。

それから市が立ち上げました江田島ファンクラブの方が、江田島市に縁のある、ゆかりのある方々なんで、直接的にはもう、そのあたりしか実は働きかけることはできません。

あとの場所では、市長が行って物事をお願いするような、とかいうような機会がほとんどありません。

お願いするとすれば、よその町と同じように市のホームページとか、何かの例えば、今江田島市なんか市の広報紙なんか郵送しとるところがありますけれども、そういったところへ、同封してお願いするとかいう形で、お願いするしかないですけども。

若干、制度を制度的にですね、非常に利用される方が確定申告をされる方はいいですけど、そうじゃないサラリーマンの方というのは、確定申告をしない方が非常に手続的に、確定申告に行かなければいけないということがあってですね、非常にサラリーマンの方には、気の毒な、私は大変気の毒なね、たぶん確定申告書せずに単純な寄附になつとるんじゃないかと思うんですけども、制度上のちょっとこう非常に不便なことがあって、もう一つ積極的にできないという気持ちのところはあります。ま、そんなことはいいじゃないかと。上げたる人もおりゃ、相手の立場どうじゃろうとこうじゃろうと確定申告しようがすまいがええじゃないか、してもらええじゃないかという考えはあるんですけども、ただ単純な寄附をお願いするということではなしに、ふるさと納税という名前がついておりますんで、やっぱりふるさとのことをいろいろ気にかけていただくという気持ちが、こもったものじゃないとただ単純に金を集めればいいじゃないかということではないんで、できるだけさ

さまざまな市を通じてその働きかけはしますけれども、大竹とか竹原なんかは、非常に少ないというのは、やはりその手間暇かけた割には、金額的には大きい金額にならないということが一つあります。あって、私は積極的にほとんど取り組まないんじゃないかと思えますけれども、江田島市も、5年間で、今のような状態で市のホームページとかその程度です、5年間で1,200万という金額なんで、非常に金額的には、全体的には非常に小さいと。

浜田も、5年間で1億というとな、1年にすれば、2,000万平均ぐらいなんですけれども、非常に一生懸命やっとなるんはそのぐらいということで、多分どこの市町もですね。

手間暇の割には、大きい成果じゃないのという考えが私はしとんじじゃないかと思えます。ただ制度がありますんで、これからいろいろ考えてみてですね、知恵を出してきて、取り組めるところは、例えばホームページの何かも言われるように、よりわかりやすいような形でですね。表示できればという思っています。

ちょっと工夫を重ねてみたいと思います。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） いや、市長、浜田は去年で1億を集めたんですよ。

これはね。僕はね、そういうんじやのうて、僕が言うのは、ただお金を集めればええいうんじやのうて、やはりそういうような第2のふるさと思ってくれる人とか、こっから出とる人に対して、江田島市は今こういう状態ですよ。メールでもね、いろいろ知らせるいうことは大切じゃろう思うんですよ。その一環として、ふるさと納税のこれを充実してくださいという具合に、僕はまあこうとらえとる。ほいじゃけん、とにかく金をくれいうようなことじゃのうて、例えば東京、税金はまあすんですから。東京おる人は、東京へ住民税をこう払うと。その一部を今島が、江田島市はこういう状態じゃということですね。知らせるいうことなく、知らして、わかってもらいうことですよ。

そういうすることによって、僕は、江田島の方へ目が、顔が向いてくるんじやなあかと。そういう場合に、僕はまあ理解しとる。それをお金、ただ集めよう思うて、くれえいう、そういう意味じゃないことだけは、まあ理解しとってください。ほいじゃあ、まあね、よそがやりよること、ふるさと納税、制度をこしらえとんですから、市長。これをもうちょっとね、充実してもらいたい。そういうことを含めて、これを出さしてもらいます。

よろしゅうお願いいたします。

今度はね、第3番目の件なんですけど、これはまあ、僕が色分けこうしたんですが、あれはやっぱり、ダイヤこの4月から減便になってですね。あれなんですけど、やはり、交通局が、江田島汽船、バスとか、その辺の話は、されたんですか、ダイヤの。ダイヤをこのようにこうしたとき。

○議長（山根啓志君） 山本企画部長。

本市の交通局においては、ダイヤ改正の折には、江田島市バスと連携を図っておるところですが、議員がこのようにつくっていただいておりますとおりに、私もバスのダイヤと一緒に照らし合わせてみましたが、市民の皆さんに不便をかけておる便があるということは承知しております。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君）　　ありやあね、まず最初黄色のところを、僕が何で黄色にしとるか、いうことをちょっと説明しましょう。

これは高田へ6時7分を僕、印しとんですよ。それと三高6時8分いうのを印しとんですよ。これどういうことかいうたらですね。

例えば、減便になったんですよ。減便になってね、高田、遅れて三高が、例えば5分あれば行くんですよ。5分あればね、三高の人が遅れて、高田へ行くのは、まあ間に合うと。いうように、僕は考えたんですよ。自分が広島へ行くとき、この1分差じゃあね、遅れても間に合わんのですよ。ほんまに市民のことを考えて、ダイヤを編成しとるんかいうことになったら、三高、宇品はね、当初からダイヤは全然変えてないんです。

このたび能美が、24便になって新たに变えたんですよ。そのとき現実に、本当に住民のことを思っとるんなら、その辺のことも、そりゃ気づかんかったいや、まあそれまでじゃが、その辺もこう考えて、ダイヤ編成をしてもらおう。

まずこれは船と船のことなんです。ここへね、高田7時40分、三高7時40分いうのがある。これはね、例えば5分ぐらい違わされんのかいうのが、僕の正直な気持ちなんですよ。それから、高田8時12分、三高が8時15分。3分で高田から三高まで行くかいの、て自分で考えるんですよ。

ほんでいううちにね、人ごとでダイヤをやっとるけん、そういうことになるんじやろう思うんです。自分のことで考えて、三高も助けんにゃいけん、市交通局を助けんにゃいけん、いうことはよ、やはり交通局のほうが、もうちょっと住民サイドに立ってね、お互いが乗り合えるようなダイヤ編成をこう、してもらいたい。

それと今度は帰りの便、6時、7時半、21時いうんがあるんですが。これも同じ便なんよ。宇品、例えば、三高の人が6時に乗って、間に合わん5分遅れたと。

それなら例えば、10分、15分差を作ってもぼくはえかろう思うんですよ、こりゃあ。その辺をどういいうぐあいに思われとんか、ちょっと聞きたいです。

○議長（山根啓志君）　　山本企画部長。

○企画部長（山本修司君）　　はい。市営交通船と三高航路につきましては、それぞれ議員ご承知のとおり、事業者が異なっておりますので、それぞれの事業者の御都合によって、ダイヤ編成をしております。

しかしながら、市営船については、本市が関与しておる交通船でございますので、今議員がおっしゃっていただいたような、市民の皆さんの利便性に最大限配慮した形で、ダイヤ編成に努めてまいりたいと思います。

また、市では市公共交通協議会を設けておりまして、ここの中で、陸上分科会、海上分科会、それぞれの公共交通について話し合う場所を設けております。

また議会におかれましては、交通問題調査特別委員会を設置していただいておりますので、その場などを通じまして、説明の機会を設けさせていただきたいと思っておりますし、市民の皆さんの声を最大限に吸い取った形で、今後も公共交通を守るようよう、努力してまいりたいと思っております。

○議長（山根啓志君）　　3番　上本議員。

○3番（上本一男君）　　まあ山本さんの方から、どう言うてええんですか、ダイヤ、こ

りやちょっと考えてみようと。というような意見を聞かんかったんですが。

まあ今度変えるときには、その辺もこう考えてね、やってもらいたいと思います。

ここへね、もう1カ所ね。鉛筆書きしとんは、またデマンドの分ですが。これ路線バスは、赤で書いたんがあるんです。赤で。

今ね、町からこっち、遊びに来る人等なんかやったら、三高に着いて、能美の方は、なんです、僕は車で移動するけん、三高の方がよう感じるんですが、やはり接続がないいうことを、よう言われるんですね。

バスで降りても、船で来ても、今度はまた行ったら、沖村方面へ行きますよ。

向こう行くバスも、どう言うたらええんですか、接続船はないんかいうことを聞かれますけど、これ見てね、がっくりきたのはね、ただ一応走らしよるいうだけ。ね。

一応、住民の手前接続とか何とかいうのは、全然考えてないようなね。

やはりね、市民のことを本当こう思うんならね、ある程度ね、やはりあの三高は個人なんなら、能美バスはうちのじゃけんね。

やはり、うちが三高へ何時着く船をより寄せて、ダイヤ編成するようにこりゃ考えんにゃいけん思うんですがね。

その辺、山本さん。

○議長（山根啓志君） 山本企画部長。

○企画部長（山本修司君） はい、議員おっしゃることは重々承知しておるところでございますが、まず一つ御理解いただきたいのは、本市は西能美航路で言いますと、中町と高田と三高という港を持っております。

ここに向けて、バスを走らせておるわけでございますから、宇品から出る船が三高に着く。または、中町、高田に着く。

そこに向けて、バスを走らせるということになっておりますので、船の方は、それぞれの港から一つの地点を目指して走らせるわけでございますけれども、バスについては、それぞれの路線をつなぐように、バス停を確実な時間で通過する必要がありますので、あちらを立てればこちらが立たずということがどうしてもですね、物理的に出てまいります。

それを満足させようとする、バスを走らせる台数を増やす必要が出てまいりますので、議員が御指摘のことは、私も十分研究をさせていただいて、市民の皆さんに不便をかけているということについては、重々承知しておりますが、物理的な制約がある中で、最大限努力をさせていただくという答弁にとどめさせていただければと思います。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） 山本さん、ああでええんよ。

ええんじゃがね、僕が言いたいのは、この4便あるんを増やせ言うんじゃないん。

この4便あるんを、どう言うたらええんですか、もうちょっと接続がうまいことならんかいうことを言いよるだけであってね。それを今度やるときには、ちょっとまあ考えてください。まあ私がこう言いたいのは、そういうことで。ま、とにかくね。

僕はやはり目線をね、やっぱり市民の方へ向いと坎にゃ、こういけん思うんですよ。それがつついダイヤ編成にしても、どういう言うんですか、ロジはええんか、この度のこのダイヤ編成、ロジの食事の問題もこうありますよね、そういうもん。

とにかく視線を、市民、利用する人が我がふるさということをね、根底においとかにやね、狂うてくる思うんよね。その辺を。どう言うてええんですか、私らも考えますし、市長、職員の方も考えてくれよんじゃろうが、それをずらさんように、まあ一つお願いいたします。

○議長（山根啓志君） 正井副市長。

○副市長（正井嘉明君） 今、山本部長から申しあげましたように、今の御提案についてはですね。確かにそのとおりだと思います。市民の立場から立ったらですね。

宇品から来たときに、三高がなかったら、中町に早く帰りたいと。そうすると、大体同じ時間帯で出ておればですね。これは、また30分、あるいは小1時間待つと。

そういうふうに考えると、この西能美航路の再々編を今進めておりますが、やはり、西能美航路はですね。

中町、高田、三高、これを一体的にこのダイヤ改正をしないとですね。こういう航路がどういふかね、編成がなかなか難しいだろうと思います。

ただ事業者が今違いますから。

それぞれこの時間帯はたくさん乗ってくれば、どうしてもその時間帯に走らしたいと。実入りが多いところをどうしても、走らそうとする傾向があります。お互いに競合しとるわけですね、そこに弱点があるわけで。

そうすると、同じように中町とですね。三高が同じような時間帯なり、そこに同じようにバスを接続さすというのは、なんと難しいことになってくるんですね、技術的に。そういうようなあい路がありましてですね。

今後は、海上分科会でそういったこともですね、西能美航路の再々編に伴ってですね、今後そういったものもアイデアとして、知恵として出てくる時代がもうすぐ来るんじゃないかと。

公設民営というのはそういったこともですね、あるいは定期もですね。

同じ定期で走らすとか、そういう利便性をどのように図っていくかということも極めて大事な視点だと思っておりますので、そういったことも今後、指定管理者制度においてはですね、仕様書の中にきっちり盛り込みながら、市民の立場に立った、どういふかね、西能美航路再々編、あるいはこの公設民営の方向性はですね、進めていきたいと。

御意見を大事にしながら、反映できる部分は反映していきたいと、このように考えてます。

以上です。

○議長（山根啓志君） 3番 上本議員。

○3番（上本一男君） ありがとうございます。

以上で、3番 上本議員の質問を終わります。

○議長（山根啓志君） 以上で、3番 上本議員の一般質問を終わります。

これで一般質問を終わります。

延 会

○議長（山根啓志君） お諮りします。

本日の会議はこの程度にして、延会したいと思います。

御異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

異議なしと認めます。

したがって、本日はこれにて延会することに決定しました。

なお2日目は、明日午前10時に開会いたしますので、御参集願います。

また15時30分から全員協議会を開催しますので、会議室に御参集をお願いします。

本日はご苦労さまでした。

（延会 15時13分）